

平成28年度

日本財団助成

発達障害支援スーパーバイザー養成研修

事業実施報告書

平成29年3月

一般社団法人 日本自閉症協会
全日本自閉症支援者協会

目次

巻頭言

| | |
|--|----|
| 全日本自閉症支援者協会 副会長 五十嵐康郎 | 1 |
| 1. 集合研修スケジュール | 3 |
| 2. 実務研修報告 | |
| □(社福)侑愛会 星が丘寮 | 5 |
| □(社福)はるにれの里 札幌市自閉症者自立支援センター ゆい | 7 |
| □(社福)梅の里 障害者支援施設 あいの家 | 9 |
| □(社福)けやきの郷 初雁の家 | 11 |
| □(社福)菜の花会 障害者支援施設 しもふさ学園 | 13 |
| □(社福)嬉泉 嬉泉福祉交流センター袖ヶ浦 | 15 |
| □(社福)正夢の会 昭島生活実習所 | 17 |
| □(社福)横浜やまびこの里 東やまたレジデンス | 19 |
| □(社福)川崎市社会福祉事業団 障害福祉サービス事業 川崎市くさぶえの家 | 22 |
| □(社福)めひの野園 障害者支援施設 うさか寮 | 24 |
| □(社福)檜の里 自閉症総合援助センター あさけ学園 | 26 |
| □(社福)つくしの会 障害者支援(自閉症者療育)施設 はぎの郷 | 28 |
| □(社福)北摂杉の子会 萩の杜 | 30 |
| □(社福)あかりの家 障害者支援施設 あかりの家 | 32 |
| □(社福)三気の会 障がい者支援施設 三気の里 | 34 |
| □(社福)萌葱の郷 自閉症総合援助センター めぶき園 | 36 |
| 3. アンケート集計結果 | 38 |
| 4. 修了者名簿 | 56 |

巻 頭 言



全日本自閉症支援者協会

副会長 五十嵐 康 郎

一般社団法人日本自閉症協会、一般社団法人全日本自閉症支援者協会が主催し、一般社団法人日本発達障害ネットワーク、日本自閉症スペクトラム学会、発達障害者支援センター全国連絡協議会の後援・協力による平成28年度発達障害支援スーパーバイザー養成研修（日本財団助成事業）を完了しましたので報告いたします。

1. 事業の目的

日本では教育や福祉の現場でのスーパービジョンがなおざりにされ、理解不足や間違った支援の結果、二次障害が生じることも少なくありません。そのため、発達障害児・者への支援を行う関係機関や団体の実務経験のある方を対象に、第一人者による講義と一般社団法人全日本自閉症支援者協会加盟法人での実務研修、さらには当事者の方々への支援や事例研究を通して関係機関・団体及び地域の核となるスーパーバイザーを養成することを目的に本研修を実施しました。

2. 事業実施に至る経緯

大分県では発達障がい者支援センター連絡協議会を実施主体に、平成18年度から発達障がい者支援専門員養成研修を実施しています。支援専門員養成研修の特色は座学としての講義にとどまらず、自閉症専門施設、早期療育機関、支援学校、医療機関等の視察、自閉症専門施設や早期療育機関での実務研修、当事者支援、事例検討等を初級、中級、上級と3年間かけて学びます。

毎年、30名の募集定員を大きく上回る150名前後の受講申し込みがあり、これまでに217名の支援専門員が誕生しました。受講者は福祉、教育、保育、保健・医療、行政、労働と幅広く、高校や大学の教職員の受講もあります。

養成研修修了者で生涯研修を目的に支援専門員の会を結成し、研修会の企画や自閉症啓発デー等の諸行事への協力、スーパーバイザー派遣事業等に取り組むなど高い実績と評価を得ています。

年々支援専門員が誕生し、関係諸機関に発達障害支援専門員が増えることから、発達障害理解と支援の質と関係機関連携が飛躍的に向上することから、国の事業として全国規模で取り組むことを提案してきましたが、実施に至っていないことから、日本財団の助成により、スーパーバイザー養成研修を実施する運びとなりました。

3. 事業の概要

前期・後期集合研修各3日間（合計6日間）と全日本自閉症支援者協会加盟法人の中から16法人を指定し、2法人を選択して4～5日間（合計8～10日間）の実務研修を受け、当事者団体への支援を経験し、全ての研修報告を提出した者に修了証を交付します。

1年間で20日間程度の研修に参加し、20本以上の報告書の提出を義務付けていることから、かなりハードな研修になっています。平成28年度は87名の研修受講者に対して、平成29年12月末日現在で43名が修了しました。

集合研修は当事者、親、行政マン、実践家、研究者、医師等幅広い立場の方からの様々な視点、理念、実践、方法論を前期・後期合わせて15コマの講義と演習を行いました。実務研修は各法人の特色を生かして、視察、講義、実習を行いました。

4. 事業の評価

全ての集合研修の講義と実務研修に対して、「大変参考になった」と「参考になった」を合わせて90%を超える受講者の高い評価を得ることができました。研修全体を通しての記述には「とても勉強になりました。これからももっと勉強してより良い支援を提供したいと思います」「どんな研修よりも有意義でした。来年も続くと聞いて本当に良かったと思いました」「フォローアップ、スキルアップの研修をお願いします」「毎年参加したいぐらい内容の充実した研修でした」「次年度以降もぜひ職員を参加させて、法人全体のレベルアップに役立てたいと思っています」等、様々な意見がありました。また実務研修受入法人からも「受講者から学ぶことが沢山あり、支援を見直す機会となり、職員のスキルアップになりました」「同じ志を持つ仲間とのつながりが広がりました」等の感想が寄せられました。本養成研修を多くの方が求めていること、発達障害理解、支援の質向上と関係機関連携の決定打となりうることを再確認しました。

5. 考察

自閉症を始めとする発達障害の二次障害や強度行動障害の予防と改善は、発達障害の支援に携わる者が発達障害の特性についての知識と理解を深めるとともに、発達障害支援に関する理論や援助技術、福祉サービスのあり方等について謙虚に広く学び、ライフステージを通じた実践によって研鑽し続けることが求められます。

平成26年度に本研修がスタートして3年が経過し、268名の方が受講し、平成29年12月末日現在、158名の方が修了しました。平成26・27年度の修了者86名に対し、郵送によるアンケート調査を行いました。都道府県は北海道から鹿児島まで26都道府県に及び、最も多かったのが茨城の11名、次いで兵庫県の10名でした。男性が52名、女性が34名でした。62名（72%）の方がスーパーバイザーとして活動していると回答し、101回以上の方が2名で、中間値としては約10回程度行っているとの回答が得られました。スーパービジョンやコンサルテーションの対象は、所属機関内と他機関・団体があり、所属機関内は研修会の講師やケース会議等のスーパービジョンが多く、他機関・団体では各種講演会の講師をはじめ、保育園・幼稚園、学校（小・中・高・短大・四大）、警察、個別相談等多岐にわたって活動していることが明らかになりました。

アンケートにも研修の継続を望む声やフォローアップ、スキルアップ研修を希望する意見が多かったことから、運営の自立を目指し、研修を継続することと、スーパーバイザー資格を認定することでさらなる質の向上と飛躍を目指したいと考えています。

平成28年度
発達障害支援スーパーバイザー養成研修(前期集合研修)

＜日 程 表＞

【会 場】日本財団大会議室（東京都港区赤坂1-2-2 日本財団ビル）
（TEL）03-6229-5111

【日 時】平成28年7月29日（金）～7月31日（日）
12:30～受付 / 13:00～開始

| 研修会日 | 研修内容 | 講 師 |
|----------|-------------------------------------|--|
| 7月29日(金) | 開講式 13:00～13:40 | |
| | 『発達障害の特性理解』 13:50～15:20 | 一般社団法人 日本自閉症協会 会長 市川 宏伸 氏 |
| | 対談 『特別支援教育の課題と展望』 15:30～17:00 | 文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 特別支援教育調査官 田中 裕一 氏 日本自閉症スペクトラム学会 事務局長 寺山 千代子 氏 |
| | 交流会 17:30～19:30(8F 食堂) | |
| 7月30日(土) | 対談 『発達障害福祉行政の展望』 9:30～11:00 | 厚生労働省障害福祉課障害児・発達障害者支援室 発達障害対策専門官 日詰 正文 氏 全日本自閉症支援者協会 会長 松上 利男 氏 |
| | 『対人援助の基礎となるもの』 11:10～12:40 | 全日本自閉症支援者協会 副会長 五十嵐 康郎 氏 |
| | 『親として専門家に期待すること』 13:50～15:20 | 一般社団法人 日本自閉症協会 副会長 今井 忠 氏 |
| | 『当事者からのメッセージ』 15:30～17:00 | 発達障害当事者会イトコサガシ 代表 冠地 情 氏 |
| 7月31日(日) | 『発達障害支援の現状と課題』 9:30～10:30 | 発達障害者支援センター全国連絡協議会 副会長 和田 康宏 氏 |
| | 『自閉症の動作法』 10:40～12:10 | 愛知教育大学 教授 森崎 博志 氏 |
| | 終了式(講評) 12:10～12:30 | |

平成28年度
発達障害支援スーパーバイザー養成研修（後期集合研修）

＜日 程 表＞

【会 場】日本財団大会議室（東京都港区赤坂1-2-2 日本財団ビル）
（TEL）03-6229-5111

【日 時】平成29年3月10日（金）～ 3月12日（日）
12時30分～受付 / 13時00分～開始

| 研修日 | 研修内容 | 講 師 |
|----------|---|--|
| 3月10日（金） | 開講式 13:00～13:30 | |
| | 『行動問題についての応用行動分析』 13:40～15:10 | 鳥取大学大学院 医学系研究科 臨床心理学講座 教授 井上 雅彦 氏 |
| | 『TEACCH アプローチの統合的な考え方：構造化による支援のパラドックス』 15:20～17:20 | 前フェイエットビル TEACCH センター長 スティーブ・クルーパ 氏 訳者 田中 恭子 氏 |
| | 交流会 17:30～19:30(8F 食堂) | |
| 3月11日（土） | 『発達障害を巡る諸問題』 ～DSM-5における神経発達障害群を中心に～ 9:30～11:00 | 医療法人 弘徳会 愛光病院 顧問 山崎 晃資 氏 |
| | 『発達障害の就労支援』 ～発達障害者の就労上の課題と具体的な支援～ 11:10～12:40 | 早稲田大学 教育・総合科学学術院 教授 梅永 雄二 氏 |
| | 『アセスメントの力を高めるためのスーパーバイザーの役割と事例検討の進め方』 13:40～17:30 | 大正大学 心理社会学部 臨床心理学科 教授 近藤 直司 氏 |
| 3月12日（日） | 『気になる子どもの発達支援』 9:30～11:00 | 全国発達支援通園事業連絡協議会 事務局長 加藤 淳 氏 |
| | 『スーパーバイザーに求められるスタンス』 11:10～12:10 | 発達障害支援スーパーバイザーの会 会長 五十嵐 猛 氏 |
| | 終了式（講評） 12:10～12:30 | |

平成28年度 発達障害支援スーパーバイザー養成研修 報告書

社会福祉法人 侑愛会
星が丘寮 中野 伊知郎

1. 実務研修実施状況

社会福祉法人 侑愛会（おしまコロニー）では、平成28年11月28日から12月2日までの5日間、実務研修を実施している。参加人数は6名で職種は、障害者支援施設の職員を中心に、子供支援センターの相談員など、多種にわたっていた。また、経験年数も幅広く5年から20年の職員であった。

2. 実務研修検討会の開催

実務研修を引き受けるにあたり、研修日程の調整やプログラム内容の検討を行うために、主要な事業所が集まりスーパーバイザー研修検討委員会を開催している。

検討委員会で話し合われた内容をもとにして、研修内容の決定がされた。その内容は、おしまコロニーの特色を生かしたものにすることとし、発達障害の方々に対する、幼児期から青年期・成人期そして老年期までの支援体制を見ていただきながら、各ライフステージに応じた取り組みを通して、一貫した包括的な支援が継続的に行われていくことの重要性に重点を置き、その中で、TEACCHプログラムの構造化のアイデアを応用した取り組みが、実践の中でどのように生かされているのかということ伝える内容としている。

平成28年度 S V実務研修

| 曜日 | 9:00 | 10:00 | 11:00 | 12:00 | 13:00 | 14:00 | 15:00 | 16:00 | 17:00 | 18:00 |
|-----------|----------------------------------|--|-------|-------|---------------------------------|--|--------------------------------------|--------|------------------|-------|
| 11月28日(月) | | | | | 受付 | あおいそら 発達障害者支援センター) 「オリエンテーション」 「自閉症の障害特性とアセスメント」 「発達障害者支援センターの役割」 | | | ホテルへ送り | |
| 11月29日(火) | 概要説明 評価の説明 つくしんぼ学級 | つくしんぼ学級での実習 実際に子供たちと関わってもらいながら評価を行う | | 休憩 | グループワーク 「評価を基にしたグループワーク」 | | 講義 児童発達障害者支援センターの取り組み | | ホテルへ送り | |
| 11月30日(水) | 概要説明と施設の見学 WSほくと | WSほくと実習 評価方法の説明 | | 休憩 | WSほくと実習 VTRを基に実際の評価を行う | | グループワーク 「評価を基にしたGW」 講義 成人就労支援 | | ホテルへ送り | |
| 12月1日(木) | 概要説明と施設見学 星が丘寮 ねお はろう | 講義 強度行動障害者支援」 ケースを基にしたGW | | 休憩 | 講義 生活支援 日中活動支援」 施設見学を交え、意見交換 | | 星が丘寮での実習 実際の生活場面を見てもらいながら、意見交換を実施 | ホテルへ送り | 実務研修の総括 意見交換会の実施 | |
| 12月2日(金) | 障害児入所施設 おしま学園 特別支援学校 分校)の見学を行います | | | 休憩 | 函館駅まで送迎 | | | | | |

- ・ あおいそら：オリエンテーションの中で、法人概要を説明するとともに、自閉症の障害特性およびアセスメントの基本を習得してもらう
- ・ つくしんぼ学級：インフォーマルな評価を中心に、療育の中でアセスメントを行ってもらう
- ・ ワークセンターほくと：TTAPをもとにしたフォーマルな評価を中心に、生活支援、日中活動支援のアセスメントを行ってもらう
- ・ おしま学園 分譲：児童入所施設と特別支援学校の実践を見学してもらう

3. 研修プログラムについて

1日目：発達障害者支援センターにて、侑愛会の概要と北海道における発達障害者支援センターの役割について説明している。また、実践研修を進めていく時の基礎となる、自閉症を中核とする発達障害の特性について説明を行い、今回の研修の大きな目的である「アセスメント」の重要性とその考え方をについてレクチャーしている。

2日目：児童発達支援センターにて、自閉症児に対する療育を中心に実習を行っている。「つくしんぼ学級」の概要の中では、自閉症を核とした発達障害児が多く利用していることを説明している。実践研修では、実際に子供たちと関わってもらいながら、「コミュニケーションサンプル」をとり、それぞれの評価を持ち寄って、分析・検証を行っている。それらの結果をもとに、今後、想定される目標設定について、職員と意見交換を行っている。

3日目：通所事業所にて、自閉症者の成人期における日中活動の様子を見てもらいながら、働くことに対する評価「TTAP」を用いて、アセスメントの方法について説明を行い、実際に直接観察を行っている様子をビデオで見ながら評価をしてもらい、自閉症の特性について意見交換を行っている。また、作業場面を見学しながら、個別支援について説明を行い、意見交換を行っている。

4日目：入所施設にて、「強度行動障害」に対するアプローチの考え方や、実際のケースをもとにした事例検討を行っている。その中で、それぞれの意見交換を行い、チームアプローチの重要性について説明している。また、構造化のアイデアをどのように生活や日中活動、社会活動に生かされているのかをビデオなどを見ながら、意見交換を行っている。その後、実際の生活寮で利用者の生活を見てもらいながらアセスメントを行い、意見交換を行なっている。

5日目：児童入所施設と特別支援学校の見学を通して、学童期における自閉症教育・療育の実際を見てもらい、意見交換を行っている。

4. まとめ

今回、5日間の実務研修を受けるにあたり、個別支援の視点に立ったアプローチを中心に実際の現場で演習を行ってもらいながら、一人ひとりの特性を知ること重点を置いた内容でプログラムを構成してみた。そこで、今回の研修は、アセスメントを中心に内容を組み立て、利用されている方々の特性を知ってもらいながら、「根拠のある支援」を組み立てていくためのヒントとなるような内容として実行した。

今回の研修の効果については、それぞれが持ち帰り、実際に活用していく中で、実践に結びつけることを実感してもらい、そのことがきっかけとなり、多くの人々が正しい理解のもと、療育・支援が行われることによって自閉症の方の生活の質が向上するのだと考える。

平成28年度 発達障害支援スーパーバイザー実務研修 報告

社会福祉法人はるにれの里 中村 修一

1. 研修者の受け入れについて

- 平成28年 9月20日（火）～23日（金）6名
- 平成28年10月18日（火）～21日（金）6名

2. 実務研修日程

| 曜 日 | 10:00 | 12:00 | 13:30 | 15:00 | 16:00 | 17:00 |
|-----|-----------|---------------------------|--------------------------------------|------------------------------|-----------------------|------------------------------|
| 火曜日 | | | 受付・開講式・オリエンテーション 講義:「法人概要」「ゆいの役割」 | 館内見学 | | 意見交換 |
| 水曜日 | オリエンテーション | 臨床実習 強度行動障がい者の 日中活動 | 休憩 | 講義「はるにれの里の 自閉症支援」について | 臨床実習 グループホーム 見学 | 行動障がいの人たちを地域で支える 意見交換 |
| 木曜日 | オリエンテーション | 臨床実習 生活介護見学 | 休憩 | 臨床実習 就労継続 A B 事業・就労移行事業見学 | | 閉講式・意見交換 |
| 金曜日 | オリエンテーション | 講義「個別支援計画と地域移行」 | グループホーム事例検討会 参加 | | | |

3. 実務研修にあたり

- 発達障がいという幅広い概念の方々を支援する研修ということで、入所施設で行われている支援（強度行動障がい者の支援）のみの研修にならないような日程の作成を心掛けた。
- はるにれの里で行われている支援の基盤となる事業理念や自閉症・発達障がいの方への理解など法人の考え方についても情報提供させていただいた。
- 法人の人材育成等の考え方を説明し、実際に法人内研修に参加していただいた。
- 全国からさまざまな職種・立場の方々に参加されるため、実務研修の内容ごとに意見交換などできるように心掛けた。

4. 研修の内容について

平成26・27年度の2回は、1日目の朝からスタートするプログラムを組んでいたが、北海道という離れた場所であるため午後からのスタートに変更している。

- 1日目：どんなに重たい障がいがあっても地域で普通の暮らしを支えるという法人理念の実践機関として、札幌市自閉症者自立支援センターゆい（以下ゆい）の機能の説明と見学を行った。

- 2日目：午前中は参加人数が多数であったため、ゆいと法人の生活介護事業所に分かれて現場に入
 ったの実習を行っている。実際の利用者の様子や職員の動きを見ていただいた。
 午後は「はるにれの里の自閉症支援」というテーマで、TEACCHプログラムの考え方から学んだ構
 造的な支援やアセスメント、自閉症の脳機能からくる背景など、法人としての基本的な支援スタ
 ンスについて説明した。また、法人の人材育成の柱の一つでもある法人内研修プログラムの説明も合
 わせて行った。
 ゆい周辺のグループホームの見学後、「行動障がいの方々を地域で支える」というテーマで、共
 同生活援助事業所の地域支援スタッフから、グループホームを支える仕組みと抱えている課題につ
 いて説明を行った。
- 3日目：法人内の事業所見学を1日かけて実施した。
 児童発達支援センター、高齢期の方が利用しているグループホームや入所施設、知的に重度の自
 閉症の方が多く利用する生活介護、知的に障がいのない方の利用が多い就労移行など、事業展開が
 多岐に渡っていることや、石狩市と札幌市に事業エリアがまたがっているため移動に時間もかかっ
 したが、法人全体の取り組みを見ていただくには必要なプログラムの一つであった。
- 4日目：法人の人材育成の基盤となる法人内研修は、年間月1～2回ぐらいのペースで業務後の夜間
 帯に行われているが、グループホームや居宅介護事業所など夜間帯に業務している職員のための研
 修を日中の時間帯を使って年4回実施している。参加していただいた今回の内容は、①「特性シー
 ト」から支援計画を作成する ②実際のケースの取り組みについてグループに分かれて議論・発表
 するものであったが、各グループに一名ずつ入っていただいた。

5. 受け入れを通して

はるにれの里のプログラムは、現場に入り込んでの実習が少ない内容になっていたかもしれないが、スーパーバイザー研修に参加した方々がそれぞれの職場に戻ったときに少しでも役に立つことは何かと考えて、プログラムを作成したつもりである。また、管理者の立場のある方から経験が数年の職員の方などいろいろな立場の方々が参加する研修のため、キャリアのある方には当たり前のことと思うことであっても、現場で行っている実際の支援には根拠があり、障がい特性などを踏まえて支援を組み立てていくプロセスなどをお伝えし意見交換する場も多く設けた。職場に戻ったときに活かせるものが少なからずあったのではないかと考えている。

法人内事業所見学のプログラムを組み入れているが、参加される方々から「どの事業所に見学に行ってお話を聞いてもみなが同じことを言っている（同じ考えを持っている）」という感想をいただいている。同じ考え方を共有できていることは法人の強みだと思っている。

今後とも、このスーパーバイザーがより良いものになるように、法人としても努めていきたい。

平成28年度 発達障害支援スーパーバイザー養成研修 報告

社会福祉法人 梅の里
 障害者支援施設 あいの家
 管理者補佐 有村 知洋

1. 実務期間、人数

- ①平成28年 8月22日（月）～ 26日（金）2名
- ②平成28年 9月26日（月）～ 30日（金）3名
- ③平成28年10月24日（月）～ 28日（金）3名

2. 実務研修プログラム

| 曜 日 | | | | | | |
|-----|----------|----------------------------|-----------------|-----------------|--------------------------|-------------|
| 月曜日 | | | | 受付 | 開講式、オリエンテーション 全体見学、講義 | まとめ 意見交換 |
| 火曜日 | 打合 わせ | 臨床実習 日中活動支援 | 休憩 | 臨床実習 日中活動支援 | 短期入所 生活支援 | まとめ 意見交換 |
| 水曜日 | 打合 わせ | 臨床実習 日中活動支援 | 休憩 | 講義 「療育と余暇支援」 | 短期入所 生活支援 | まとめ 意見交換 |
| 木曜日 | 打合 わせ | 臨床実習 日中活動支援 | 休憩 | 臨床実習 日中活動支援 | 短期入所 生活支援 | まとめ 意見交換 |
| 金曜日 | 打合 わせ | 講義「発達障害者支援 センターの機能及び現状」 | 閉講式・まとめ 意見交換 | | | |

3. 研修プログラムの軸

- ・難しい障害特性を有する自閉症の人達への支援には、全職員が共通した意識と目的が必要である事への理解。
- ・個々の利用者への理解と生活の豊かさに繋がる余暇支援活動の紹介。 ～事例紹介～
- ・障害特性を考慮した作業支援の紹介。
- ・強度行動障害の方の短期入所支援の取り組み。

4. 臨床実習

- ・屋外作業の農耕班と室内作業のロウソク班、手工芸班に分かれて、実習をして頂きました。農耕班では、利用者の特性に合わせた作業設定、また、取り扱いやすい用具の工夫などを見て頂き、室内作業では、空間、視覚的な配慮から細かい作業工程を分かりやすく設定している状況を中心に見て頂きました。

- ・生活支援では、短期入所の利用者支援を見て頂き、日によって利用する人の変わる環境の中で、個々に合った環境設定とプログラムの提供を参考にして頂きました。

5. 研修を終えて ～参加者の声～

意見交換時のご意見内容から抜粋

- ・横になっているだけ、或いは、待機の難しい利用者への促し方として、楽しみからのアプローチが必要であることを学んだ。
- ・余暇支援では、身体を動かすために必要な環境設定や働き掛けが理解できた。
- ・運動では、身体機能の向上だけでなく、コミュニケーションと出来ることの広がりにつながっており、楽しく取り組むことで、そのために必要となる支え方など、具体的に理解できた。
- ・農耕班では、個々の障害特性に合わせた作業設定をしており、参加者全員が役割を持っており、社会参加への一環として広がりを持てる。
- ・園芸班では、自分の取り組み内容を理解している利用者が多く、安定感を持って取り組んでいる。「こだわり」発言への対応が丁寧で信頼関係を感じた。
- ・手工芸班、木工班では、各自に確立された作業設定があり、取り組みが落ち着いている。利用者の特性を活かした作業設定であることが安心した取り組みにつながっている。
- ・関わり方として、全体的に声掛けが少ないと感じた。利用者の必要に応じたアプローチの大切さを学んだ。
- ・「こだわり」への対応として、好ましい事柄には、安心として認めることが必要であり、好ましくない事柄には、軽減に向けての工夫が必要である。
- ・衣服を破く利用者に対して、ワッペンを貼るなど、感じ方や目先を変えることの必要性を感じた。
- ・自分の施設の課題でもある支援員間の共通認識の大切さを改めて理解できた。

6. まとめ

当法人での実務研修では、臨床実習として日中活動支援、主に生活介護支援での実習が大半になりました。担当した生活介護支援員からも、受講者から学ぶことが沢山あり、支援を見直す機会にもなり、職員のスキルアップ、業務に対する意識の向上など、受け入れ側からしても有意義な研修であったと考えます。

それぞれの事業所で支援に対する考え方、方法などは多々ありますが、これからも、それぞれの事業所でスーパーバイザーの皆さんが核となり、利用者様への支援が更に充実されることを願っております。また、支援の質が向上し、発達障害のある方々の過ごしやすい環境作りに役立てばと思います。

平成28年度 発達障害支援スーパーバイザー養成研修 報告書

社会福祉法人けやきの郷 水野努

1. 研修概要

平成28年度のSV研修の実務研修として、「けやきの郷」では、3回の研修会を実施致しました（計16名の受入れ）。

○第1回目…平成28年10月 3日～10月 7日 受け入れ人数5名

○第2回目…平成28年11月 14日～11月 18日 受け入れ人数6名

○第3回目…平成28年12月 5日～12月 9日 受け入れ人数5名

2. 「けやきの郷」における研修目的として

発達障害支援スーパーバイザー養成研修（実務研修）につきましては、研修生の方々にとって「自閉症者支援の実際（現場）」から学ぶことができる貴重な機会として捉えております。また、「けやきの郷」におきましても、研修生の方々との情報交換や意見交換を通じながら、受け入れ側となる職員自身に対しても研修の機会となる貴重な場として捉えております。その為にも、研修内容につきましては、講義形式と臨床実習を組み合わせ、各事業所の取り組み、利用者支援の在り方などについて、研修生の皆様に直接感じていただける機会になることを目的に構成しております。

この実務研修を実施するにあたり、「けやきの郷」としては、以下の2点について、重視しております。

①「けやきの郷の理念の実践」

「けやきの郷」には、「働くことを生活の中心に据えて、どんなに障がいが重くてもその人なりの自立をめざす」「障がいの重い人も軽い人も共に支え合って自立していく」など、幾つかの理念があります。その理念を基にして、「障がいのある方々の社会参加を目指す」「地域の中に活躍の場を作り、地域での生活を目指す」などの支援の指針を作り、各事業所が共通の視点にたち、それぞれに応じた内容で実践を目指すことを心がけています。臨床実習の際には、各事業所の取り組みから、支援の実際や在り方について、学べる機会になるように心がけております。

②「太田Stage評価を基本においた支援の構築」

当法人の囑託医である太田昌孝先生（心の発達研究所理事長）が開発をされた「太田Stage」は、自閉症の認知発達に視点をおいて、個々の発達段階を捉え、適切なアプローチを行うことを心がけているものです。「LDT（言語読解力テスト）」は、簡単な検査方法であり、客観性を伴うものでもあるので、支援に携わる支援者間でも、共通の基軸として活用することができます。成人期支援の場としては、生活、活動の場面の設定、あるいは、行動に対する背景を探る際の視点として、活用しています。この研修プログラムの中では、「評価方法」の演習を取り入れております。

3. 実務研修プログラム

3回の研修プログラムの概要は、以下の通りとなります。プログラムは、「けやきの郷」内の各事業所に、臨床実習と講義をセットにしなが、構成しております。

| | | | | | |
|-----|--------------------------|----------------------|------------|--|-----------------|
| 月曜日 | | | 受付 | 開講式 講義「けやきの郷の理念」 | 意見交換会 |
| 火曜日 | オリエン テーション | 臨床実習 (ワークセンターけやき) | 休憩 | 臨床実習 (ワークセンターけやき) | 演習 「太田 評価」 |
| 水曜日 | オリエン テーション | 臨床実習 (やまびこ製作所) | 休憩 | 臨床実習 (やまびこ製作所) 講義「自閉症者の就労支援」(やまびこ製作所) | |
| 木曜日 | オリエン テーション | 臨床実習 (初雁の家) | 休憩 | 臨床実習 (初雁の家) | 講義 「GHの取り組み」 |
| 金曜日 | 講義・臨床実習 「発達障害者支援センター」 | | 閉講式 まとめ | | |

4. 最後に

前段にも触れましたが、この「発達障害支援スーパーバイザー養成研修（実務研修）」の機会を通じて、研修生と職員（受入側）が相互に学び、成長に繋がる貴重な場であることを常々感じております。私たち「けやきの郷」としても、「開かれた施設であること」を基本において、研修生の方々と交流をさせていただいております。研修生の皆様からは、貴重なご意見をいただくことも沢山ありました。「“けやきの郷”が取り組むべきこと」、「支援や考え方を振り返り、見直し、改善すべきこと」など、「これから」という前進に繋がるものでもありました。また、私たち職員の取り組みを後押ししていただけるような「温かいお言葉」もいただくこともできました。これからも、研修生の方々には、それぞれの支援の現場に持ち帰り、参考にして頂いたり、ともに支援にあたる職員同士の心の繋がりになることを心がけて参りたいと思います。この度は、誠に有難うございました。この場をお借りいたしまして、お礼申し上げます。

平成28年度 発達障害支援スーパーバイザー養成研修 受け入れ報告書

社会福祉法人 菜の花会
しもふさ学園 館山 聡

1. 研修日程

今年度、菜の花会は2回の受け入れ日程とし、第一期4名、第二期7名、合計11名の受け入れとなった。今年度の受け入れについては、1名、都合により第一期から第二期への受け入れと変更があった。その他の研修生については特に変更はなかった。また、開始の時間は全国からの参加であるため、初日は午後からの開始とした。参加された方には医療の分野からも参加があったことから、福祉と医療の連携の不可欠性・重要性が改めて認識できる機会となった。

| | | | | | |
|-------------|--|-----------|------------------------|-----------------------------|------------------------|
| 実施機関名 | 社会福祉法人 菜の花会 | | 担当者職氏名 | 総施設長 小林 勉 (館山 聡) | |
| 連絡先住所 | 〒 千葉県成田市名木 | | | | |
| 電 話 | | | | | |
| E m a i l | | | | | |
| 事業の概要 | 障害者支援施設 しもふさ学園 (施設入所支援 名 生活介護 名 短期入所 名) 生活介護事業所 しもふさ工房 (生活介護 名) 多機能型事業所 アーアンドディだいえい (生活介護 名 就労継続 型 名) 生活介護事業所 ネクスト名木小 (生活介護 名) 千葉県発達障害者支援センター 共同生活援助 菜の花ホームズ か所 名 放課後等デイサービス 名 菜の花会相談支援事業 | | | | |
| 実 務 研 修 日 程 | | | | | |
| 1 回目 | 月 日 (月) ~ 日 (金) | | | | |
| 2 回目 | 月 日 (月) ~ 日 (金) | | | | |
| 月 | | オリエンテーション | 千葉県発達障害者支援センターの役割 (講義) | 生活介護事業所の取り組み① | 質疑・応答後、終了 |
| 火 | 強度行動障害のある方への支援 (グループホーム見学含む) | 昼食 ・休憩 | 放課後等デイサービス見学 | 地域生活支援の実際 (講義) グループホーム見学 | 質疑・応答後、終了 |
| 水 | 生活介護事業所の取り組み②③ | 昼食 ・休憩 | 施設実習 ・日中活動支援 | 施設実習 ・生活支援 | 菜の花会の生活支援 質疑・応答後、終了 |
| 木 | 施設実習 ・日中活動支援 | 昼食 ・休憩 | 法人の理念 講話 | 施設実習 ・生活支援 | 夕食を兼ねた意見交換会 |
| 金 | ケース検討会 (グループディスカッション) とまとめ | | | | |

2. 実施報告

現場実習

今回、3年目の実施となり、当法人でも対象となる方々へのプログラムもスーパーバイザーに適した内容を考え、実習となる日中活動班では、特に支援が難しいとされる方が所属している班での実習とし、現場に入ることによって初めて会う利用者さんの行動特性や職員の支援を客観視し、自身の方針との比較やスーパーバイズの方法を考えて頂けるよう配慮をした。

できるだけ現場の時間を設けたいが、法人の理念や支援方針、事業の説明等の時間を考えると、研修期間中実際の現場にて実習する時間は限られてしまった。その為、後半に意見交換会の機会を持って、互いに理解を深められるようにした。

事例検討会

スーパーバイザーとしての役割とは何かを考えると、的確なスーパーバイズができることである。

このことを踏まえ、当法人では最終日にケースの検討会をグループディスカッション形式で実施した。最終日となると、研修生皆が打ち解けた時期でもあるので、話し合いも割合にスムーズに進むこともあり、実施は適していたと感じる。

また、このディスカッションでは、主に困難事例を持ち合わせることもあり、ある程度の方向性を出すことと、「答え」を求めるのではなく、様々なケースについて多角的に考察し、どのようにスーパーバイズすれば良いのか、その方法を考える機会とした。研修者からは好評であったため、次回以降も実施したい。

意見交換会

日中の研修時間は限られた時間であり、研修生からの意見や質問も限られてしまう。研修期間中、一日であったが夕食を兼ねて意見交換を行った。これは毎回設けており、研修生からの意見や質問をクリア、また、当法人にとっても非常に有意義なものとなっている。

その際に、これも毎回行っていることだが、当法人へ指摘を各研修生から伺って、より良い支援ができるよう、伺った指摘は各現場へフィードバックしている。

まとめとして

この研修の大きな利点として、全国規模のネットワークが持てることがある。全国からの参加であるからこそ、人脈が広がる良い機会となる。各法人、それぞれ支援の方向性は同じでも、その方法は異なる部分が多い。基本となるのは、利用者様に安心した生活を送って頂くことである。しばしば意見交換会でも意見の食い違いが生まれ、熱い議論となるが、どちらが正しいということはないと感じる。皆、それぞれが強い芯を持ち、業務に当たっていることを研修の度に実感する。

従って、研修後、施設に戻った際には何がプラスとなるのか、何を持ち帰ってもらえるのか等、受け入れ側としては非常に不安な面もあるが、今後もこの研修が続けられるのであれば、当法人としても微力ながら協力していきたい。

平成28年度 発達障害支援SV養成研修 実務研修受入報告

嬉泉福祉交流センター袖ヶ浦
統括施設長 石井啓

社会福祉法人嬉泉では、嬉泉福祉交流センター11月と1月に各5日間、計13名の方を受一袖ヶ浦（袖ヶ浦のびろ学園及び袖ヶ浦ひかりの学園の所在する袖ヶ浦地域における事業拠点の名称）にて、11月、12月、1月、3月の各5日日間、計13名の受講生を受け入れた。



1. 企画段階での受け入れに関する確認事項

- ①当法人の療育支援において根本的な考え方となる「受容的交流」の理念に基づいた講義や臨床実習のプログラムを企画・検討する。
- ②研修生と積極的に情報・意見交換をし、自らの支援を客観的に見直す機会とする。
- ③実際の支援現場に入る事業拠点を限定し、より利用者に対する療育や理解を深められるようにする。（オリエンテーション時の事業説明や事業所見学は全事業所を網羅する）。
- ④可能な限り現場での臨床実習の時間を増やし、実際に行われている支援を体験してもらう。
- ⑤毎日必ず振り返りの時間を作り、その中で意見交換を行うと共にそこで職員からのピアスーパービジョンを実施する。

2. 企画段階での課題と対応

- ①支援に対する理解や利用者との関わりをより深められるようにする。
実際の支援現場に入る事業拠点を、袖ヶ浦ひかりの学園（成人施設）、袖ヶ浦のびろ学園（児童施設）の2カ所に限定した。どちらに入るかは事前に受講生に選択してもらい、5日間を通して選択した事業所にて研修してもらった。
→今年度は全員が袖ヶ浦ひかりの学園（成人施設）を選択した為、袖ヶ浦のびろ学園（児童施設）での臨床実習は行わなかった（のびろ学園選択時に予定していた講義のみ実施）。
- ②宿泊場所の提供について
→受講生の人数や性別等を考慮し、戸建てタイプの宿舎（個室ではなく多床室で、受講生同士の交流を意図して）もしくはアパートタイプの宿舎（個室でプライバシーが確保される）を提供した。受講生の事情により外泊を希望する方については、事業所近辺のビジネスホテルを利用してもらった。
- ③例年同様、受講生と職員との親睦を深めるべく、交流会を実施した。
→交流会という和やかな雰囲気の中で有意義な話が出来、参加者だけでなく受け入れ側の職員にとっても貴重な時間であった。

3. 参加者の方のご意見、感想等

以下は事務局提出の実習報告の写しや、研修終了後に記入してもらったアンケートの中からの抜粋である。

- ・「“受容的交流”の理念を多くの職員がしっかりと引き継いでおり、利用者の“気持ち”や“心”に向き合う療育について深く考えさせられた。」
- ・「色々な職員の方から話を伺ったが、一人ひとり話し方は違えど同じ方向を向いて支援している事に共通の理念がある事の強みを感じた。」
- ・「実際の現場に入る時間が長く、利用者の方と関わる時間が多く持つことができたので、その分理解を深める事ができた。」
- ・「近年ABAや構造化等の支援技法が先に立ってしまいがちだが、まずはありのままの相手を受け入れ、相手の内なる気持ちを理解し信頼関係を築いていく事が自閉症支援の根幹であることを実感した。」
- ・「責任者クラスの職員だけでなく、若い職員の方ともゆっくりと話をする機会があればと思った。」
- ・「成人利用者の方に対する呼称としては望ましくないのではと感じることがあった（〇〇君やニックネーム等で呼ぶ）。」

2. 受け入れを通して

今年度も昨年同様に実際の支援現場に入る事業拠点を、袖ヶ浦ひかりの学園（成人施設）、袖ヶ浦のびろ学園（児童施設）の2カ所から選択してもらい、終始同事業所で研修を重ねる事でより支援に対する理解や利用者との関わりを深められるようにした。その結果全受講生がひかりの学園を選択した為、のびろ学園での臨床実習は行われなかった（のびろ学園選択時に予定していた講義のみ実施した）。しかし、全員が同じ場所で研修を受けた事で、より意見交換が活発になり、受容的交流の理念をベースとした支援に対する議論が深まったのではないかと感じられ、受講生の感想も概ね好評であった。また、毎年記している事ではあるが、受け入れを通して私たち自身の支援を今一度見直す良い機会となっていること、「発達障害を持つ方に幸せになって欲しい」という同じ志を持つ“仲間”との繋がりを広げる事ができたことは本研修事業の大きな成果の一つであると感じている。今後も本研修事業がより有意義なものとなるよう、法人として、施設として力を尽くしていきたい。

平成28年度 発達障害支援スーパーバイザー養成研修 「社会福祉法人正夢の会」実務研修報告書

1. 実施期間、人数：各回2名

| | |
|-----|-----------------------------|
| 1回目 | 平成 年 月 日（月曜日）～平成 年 月 日（金曜日） |
| 2回目 | 平成 年 月 日（月曜日）～平成 年 月 日（金曜日） |
| 3回目 | 平成 年 月 日（月曜日）～平成 年 月 日（金曜日） |

2. 実施場所：

初日：パサージュいなぎ（施設入所支援、生活介護）

2・3日目：昭島生活実習所（生活介護）

4・5日目：多摩市ひまわり教室（児童発達支援事業）

3. 実務研修プログラム

(1) 日程表

| 曜 日 | | | | | | |
|-----|-------------------------|-------------------|----|---|----------------------------------|-------------|
| 月曜日 | | | 受付 | 開講式・オリエンテーション・見学 講義 「正夢の会の取り組み」：山本事業統括又は清水地域支援局局長 講義 ご希望により「行動障害支援概論」又は「強度行動障害の個別支援事例」：堀内レスポーンいなぎセンター長 | | 意見交換 |
| 火曜日 | オリエンテーション | 臨床実習 昭島生活実習所 | 休憩 | 臨床実習 | 講義 「正夢の会の発達障害のある方の取り組み」：小島施設長 | まとめ 意見交換 |
| 水曜日 | ション | 臨床実習 昭島生活実習所 | 休憩 | 臨床実習 | 講義 「発達障害のある方の理解とアセスメント」：森心理士 | まとめ 意見交換 |
| 木曜日 | | 臨床実習 多摩市ひまわり教室 | 休憩 | 振り返り | 講義 「発達障害児の特性理解」：清水施設長 | まとめ 意見交換 |
| 金曜日 | 講義 発達障害児支援の実際」：清水施設長 | 床実習 多摩市ひまわり教室 | 休憩 | 閉講式・全体のまとめ 意見交換 | | |

(2) 講義

- ①正夢の会の各ライフステージに応じたサービスの取り組み
- ②重度知的障害を伴う発達障害のある方の支援
 - i 統一された支援への取り組み：昭島生活実習所ではどのスタッフが支援を行っても一定のサービスが提供できるよう、各種マニュアルとフォーメーション表と呼ばれるものを整備している。マニュアルは時間軸に沿って箇条書きにしておき、利用者の状況に応じてすぐ書き換えられるようにしている。フォーメーション表は誰がどの時間にどの利用者にサービスを提供するか書かれた表であり、このフォーメーション表によりもれなく一定のサービスを提供できるようにしている。実践研修では担当スタッフについて頂き、そのスタッフがどのようにサービスを提供しているか見て頂いた。
 - ii リスクマネジメント、ニヤリハットの取り組み：リスクマネジメントとしてインシデント・アクシデントレポートの取り組みを紹介した。年間1500件挙げられた年もあり、「ヒヤリハット」（職員がヒヤリとしたりハットした、インシデントに結びつく前に感じたこと）の段階でいかに対応策を講じていくか、ハインリッヒの法則と共に説明した。「ニヤリハット」とは思わずスタッフがニヤッとしたりハットした、より良い支援への気づきであり、年間2000件挙げられた年もありスタッフ間で共有する仕組みを説明した。
- ③発達障害の特性理解、アセスメント、実践：アセスメントについては独自の書式があり、13領域320項目についてアセスメントを行っている。アセスメントを中心に講義した。
- ④幼児期の発達に配慮が必要なお子さんの特性と実践：幼児期の困り感をアセスメントするポイント、特性理解、具体的な支援（合理的配慮）について、ひまわり教室の実践を交えて講義した。

3. 実践研修

①昭島生活実習所

- A5グループ：昭島生活実習所はA（自閉症の方）、B（身体障害のある方）、C（比較的コミュニケーションの取り易い方）の3つのグループに分かれており、中でも特性に応じA1～A5、B1～2、C1～2の全部で9つのグループに分かれている。A5は比較的情緒が安定している方のグループでスケジュール支援や自立課題の取り組みについて説明した。
- A4グループ：情緒面で特別な配慮が必要な方のグループである。多飲症の方もおり、衝動を緩和する環境設定やPECSの取り組みについて説明した。
- C2グループ：静かな環境で落ち着いて活動することが望ましい方のグループである。癲癇発作がある方の支援、アンジェルマン症候群の方の支援について説明した。

②多摩市ひまわり教室

- ・2～4歳児クラスと4～5歳児クラスの2クラスに入り、自由遊び・設定活動・昼食に参加する。子ども達は、それぞれ場の共有、傍観遊び、並行遊び、連合遊び、協働遊びと発達の段階が違うが、各活動の中でそれぞれに応じたねらいや特性に応じた支援をする。重ねて即時アセスメント&支援も要求される場面が多く、幼児の育ちへの支援を体験した。

4. 感想

- ・「法人の理念が浸透しており、昭島でもひまわりでもきちんと実践されていることに感心した。」と多大なるお褒めの言葉をいただいた。

平成28年度 発達障害支援スーパーバイザー養成研修 実務研修報告

社会福祉法人 横浜やまびこの里
東やまたレジデンス 木村 重之

横浜やまびこの里での実務研修について

横浜やまびこの里では、自閉症・発達障害の人たちへの専門支援機関として事業を展開している。支援に携わる職員が自閉症の障害を理解して、ひとりひとりにあわせた個別化された支援による自立支援や地域生活支援を目指している。当法人での実務研修では、施設サービス内での取り組みだけでなく、発達障害支援のスーパーバイズに必要とされる障害の捉えかたや支援のプロセスからチームによる支援のしかたを含む支援のマネジメントなども研修カリキュラムに設定した。

1. 実施日程

第1回 平成28年11月14日（月）～ 11月18日（金）

第2回 平成28年12月 5日（月）～ 12月 9日（金）

2. 研修カリキュラム

| | 時間 | 内容 | 形式 | 場所 | 備考 |
|---|----|--------------------|------|-------|-----------|
| 月 | | 研修オリエンテーション | | 会議室 | |
| | | 法人の成り立ちと理念 | 講義 | 会議室 | |
| | | 施設見学1(東やまたレジデンス) | 見学 | 作業班 | 生活介護支援時間帯 |
| | | 基本的な支援の考え方 | 講義 | 会議室 | |
| | | 質疑応答－終了 | 意見交換 | | |
| 火 | | 観察と評価 | 講義 | 会議室 | |
| | | 休憩 | | | |
| | | 観察と評価演習 | 演習 | 会議室 | |
| | | 施設見学2(東やまたレジデンス) | 見学 | 作業班 | 生活介護支援時間外 |
| | | 施設見学3(東やまたレジデンス) | 見学 | 各ユニット | 施設入所支援 |
| | | 質疑応答－終了 | 意見交換 | 会議室 | |
| 水 | | 施設実習1(東やまた工房) | 現場実習 | 作業班 | 生活介護で観察記録 |
| | | 休憩 | | | |
| | | 施設実習2(レジデンス・工房) | 現場実習 | 作業班 | 生活介護支援体験 |
| | | ※オプション 作業エリア会議参加 | 聴講参加 | 会議室 | ※希望参加 |
| 木 | | 施設見学3(ボルト能见台) | 見学 | 作業班 | 生活介護 |
| | | 休憩 | | | |
| | | 事例検討1(通所者プログラム) | 講義 | 会議室 | 企業内での作業 |
| | | 事例検討2(入所者支援) | 講義 | 会議室 | 行動障害者生活支援 |
| | | 事例検討3(家庭・地域への支援応用) | 講義 | 会議室 | ガイドヘルパー利用 |
| | | 質疑応答－終了 | 意見交換 | 会議室 | |
| 金 | | 行動障害への支援 | 講義 | 会議室 | |
| | | 質疑応答・意見交換 | 意見交換 | 会議室 | |
| | | 終了式－解散 | | | |

3. 研修構成

①講義・演習

対象となる受講者は年間の全体講義において自閉症の障害特性や支援技術の受講が終了しているため、最初に構造化された支援を提供する理由や意味を理解してもらう「基本的な支援の考え方」「観察・評価」を講義として設定した。ここでは方法論や技術論が支援の目的とならないように、ひとりひとりに応じた生活の向上や自立の目標設定とアセスメントの考えかた、そして客観的に見るべき観察のポイント、活動環境の工夫や支援のありかたを説明した。その後利用者の動画を見て観察と評価を演習形式で実施してもらった。

「行動障害への支援」の講義では、利用者が“行動障害を起こす人”でなく、環境との相互関係の中で生じている行動の仮説を障害特性と関連付けて説明した。そして“わかりやすく環境を変える”ことで行動が改善できる可能性を説明した。受講者が今まで学んだ講義を振り返り、利用者が示す行動を客観的に観察して、得られた情報と自閉症の障害特性を関連付けてチームで対応策をイメージできるようにした。

講義と事例検討や現場実習では一貫して、単独職員による支援でなく「利用者をチームで支えていく仕組みやポイント」の重要性を説明した。理由としては本研修を受講する方の多くが、管理監督職クラスであり、障害理解や評価だけでなく、支援スキルや経験を問わず様々な職員構成のチームで支えていく仕組み作りに苦慮しているという声に応えるためである。

②現場見学実習

作業エリアでの個別化された支援の工夫や、チームが同じ考えや関わりによる支援を実施する仕組みを現場見学や支援補助として参加してもらい学んでもらった。また利用者ひとりひとりに設定している活動の工夫や構造化された支援が、評価に基づいて設定している理由を、ワークシートを使用して観察や聞き取りで整理してもらった。オプション（任意参加）として作業班のエリア会議に聴講参加してもらい、平常どのように職員間で利用者情報を共有して検討しているかを体験してもらった。また今年度は、法人が横浜市の南部方面で運営をしている「ポルト能見台（生活介護事業）」の見学も加え、事業所が別の場所にあっても一貫した考え方で支援が進められていることを理解してもらった。

③事例検討

最初に強度行動障害の人たちが施設での暮らしの中で適切な習慣を獲得するために、評価－計画－実施のサイクルを繰り返して支援調整をおこなったケースを紹介した。

残りの2事例は自閉症者への支援技術が特殊な施設環境で終結するのではなく、地域社会においても活用していくという、地域の中で生活を支えていくイメージをもってもらうため「施設から地域にでていき、作業活動を実施する」「余暇活動のためのガイドヘルパー利用において、ヘルパーに自閉症者への関わり方をサポートする」取り組みを紹介した。

在宅者、施設入所者、グループホーム入居者を問わず、共通する自閉症の障害特性をあらためて理解してもらい、問題となる行動の減少や消失が最終目標でなく、本人の暮らしを充実させるための支援というスタンスを再確認してもらった。

法人から実務研修実施の感想として

研修全体を通しておおむね高い評価を得られていた。観察評価の演習内容は現場でもフィードバックできるという意見もいただいた。横浜やまびこの里を実務研修場所として希望した多くの理由が、「TEACCHや構造化された支援の実際を学びたい」ということであったが、前述通りに方法論や技能の習得より、ひとりひとりの自閉症の人たちを理解するポイントと、チームによる支援のすすめかたに研修の力点をかけた。実地研修の講義を実施した管理職、現場案内を担当した監督職、支援会議に参加する現場職員、事例報告を担当した中堅職員が同じ考え方と言葉を使用して支援をおこなっていく状況を見てもらった。

受講者からは特定の不適応行動が見られる行動障害者への支援にも関心が高かった。事例検討や支援場所の見学実習では、座学で学んだ障害特性と「わかりやすく情報を伝える工夫が構造化」という考えかたを結びつけることができたという意見があった。

全国の様々な機関から参加されている貴重な本研修であり、実地研修では各自の学びの他に受講者間の交流やネットワーク作りが期待されるだろう。しかし単発研修のためその場限りのつながりで終わってしまうため、フォローアップ研修などの仕組みが期待される。

平成28年度 発達障害支援スーパーバイザー養成研修報告

川崎市社会福祉事業団
川崎市くさぶえの家
園長 永井 岳治
担当 新井 通浩

1. 実務研修受け入れ側の準備

- ①法人の基本理念・施設の基本方針に沿った実践の確認。
- ②全職員に研修の意義を説明し、成功への協力を依頼する。
- ③期間中のスケジュール確認。
- ④チューター役の職員は、自身の伝達研修であることを自覚する。

2. 実習に向けての計画

- ①期間中のプログラムの策定。
- ②当事業所嘱託のスーパーバイザーとのケース検討会の打ち合わせ。
- ③利用者への実施の説明。
- ④施設概要説明用資料の（スライド）作成。

3. 実務研修プログラム

| | 8:30 | 9:00 | 10:00 | 12:00 | 13:00 | 15:30 | 16:00 | 17:00 |
|-----|-----------------|--------------------|-----------------|--------------|-----------------|-------|-------------------|-------|
| 初日 | 出勤 オリエンテーション | | 現場実習 (体操・作業) | 昼食 (余暇支援) | 現場実習 (作業・体操) | 降園 | 休憩 意見交換 | 退社 |
| 2日目 | 出勤 | 現場実習 (体操・作業) | | 昼食 (余暇支援) | 現場実習 (作業・体操) | 降園 | 休憩 意見交換 | 退社 |
| 3日目 | 出勤 | 講義 「自閉症者への地域支援」 | | 昼食 (余暇支援) | 現場実習 (作業・体操) | 降園 | 休憩 意見交換 | 退社 |
| 最終日 | 出勤 | 現場実習 (体操・作業) | | 昼食 (余暇支援) | 現場実習 (作業・体操) | 降園 | 休憩 意見交換 ケース検討会 | |

4. 研修内容

<体操>

1日2回実施。朝は身体を起動すること、午後はクールダウンを目的に『常同行動・多動』に配慮した種目を、音響機械を使用せずマンパワーで行っています。また、種目のたびにカウントを行うことで始めと終わりを明確にしています。身体の使い方にごちなさのある自閉症者への体操提供は自身の頭、足、腕などの部位の理解と、歩行などの身体の使い方などの向上に繋がります。また、日々の健康の把握にも役立てています。研修生には直接支援に入っただき、サポートの技術を学んでいただきます。終盤はリーダー役を担っただき、全体把握、利用者の観察、声掛けのタイミング、音量調節、自閉症者を動かす体験をしていただきます。

<作業>

『作業解体・部品組み立て』などの作業を提供しています。体操と同様に障害特性に配慮し、「始めと終わりがわかりやすい」作業種を企業開拓し、企業から受注しています。活動時間の大半を占める作業ですが、授産に力点を置くのではなく、『集中力・持続力・達成感・コミュニケーション能力』

の獲得を目的としています。企業に赴く園外作業の取り組みなどはやりがいを感じられるプログラムとなっています。

研修生には4人の利用者がいる作業テーブルに付いていただき、進行、治具の工夫、説明力などを体験していただきます。集中力が途切れた場合や、不調時の対応をチューターからレクチャーされます。「3時間の立位が堪える」との意見もありますが、利用者の感じ方も実感できます。

<給食>

多くの利用者に偏食や食の課題がありますが、「食」の楽しみを感じていただけるよう、嗜好調査や誕生日メニューなどを提供しています。また調理実習の実施や野菜の栽培・提供が食育になり、諸問題の解決に繋がっています。食事時の会話も大切にしますがマナーの習得にも尽力しています。

研修生にも利用者の中で昼食を摂っていただき、箸の使い方やマナーへの支援をしていただきます。緊張などもあり「食事が喉を通らなかった」との感想をいただきます。

ほか、ケース記録等帳票の作成、家族対応、連絡帳の意義についても学んでいただきました。

5. 講義内容

テーマ：『相談支援を通して地域生活を考える』

講師：くさぶえ地域相談支援センター主任相談支援員 漆山 敬夫

- くさぶえ地域相談支援センターの役割
- 活動内容
- 「行動障害のメカニズム」
- 支援方法について
- 実践報告
- 質疑応答

6. 参加者の感想

<日課について>

- ・個々の特性に合わせた、課題の提示方法は有効である。
- ・プログラムの明確化と幅広い作業種がやりがいに繋がっている。
- ・待機時間が多いが、利用者が「待つ」ことに混乱していない。
- ・重度自閉症者が、スキルを獲得して行った過程を見ることができた。

<支援について>

- ・家族対応のコツを学べた。
- ・支援者間の支援に対する方針が1本化されておりブレていない。
- ・メリハリあり過ぎて、自分の事業所との対応の違いに困惑した。
- ・行動障害に関わる時の言葉の使い方が気になった。

7. 受け入れを終えて

今年度も研修生の意欲は高く、前向きな姿勢が窺えました。研修終了後に皆さんにご協力いただきアンケートを頂戴しておりますが、当事業所への評価は職員の自信と励みとなりました。またご意見については内容を真摯に受け止め、今後の支援に生かして行きたいと感じました。他都市の方との交流は我々にとって刺激となりましたが、研修生には今回の研修で感じられたことを参考に、それぞれの事業所でリーダーシップを発揮していただきたいと思います。

平成28年度発達障害支援スーパーバイザー養成研修 実務研修の受け入れ報告

社会福祉法人 めひの野園
障害者支援施設 うさか寮
施設長 東 真盛

めひの野園では、9月に3名、10月に3名、12月に3名の方を各5日間受け入れた。

1. めひの野園が、この研修で目指したもの

めひの野園では、自閉症の人たちへの関わりのあるあり方と、関わりを通じた理解のあり方について、彼らと共に学びながら、生活支援の場、就労支援の場、相談支援の場及び地域支援の場を整備し提供してきた。多岐にわたるこれまでの取り組みをどこまでお伝えできるか疑問ではあったが、すべてをオープンにし、私たちのささやかな取り組みが、参加された方たちの明日への力添えになればと法人全体で企画・運営をした。

2. 企画段階での課題と対応

長期間に渡る研修の受け入れが、変化への対応が困難な利用者にとどのような影響が出てくるかが課題だった。他機関からの実習依頼を調整したり、事業所ごとの受け入れを2名以下にするなど利用者の特性に配慮し、時には研修プログラムを変更しながら実施した。

また、参加者の実習意欲を高め、効果的な研修となるように実習の最初に参加者のニーズ確認をおこないプログラムに反映した。さらに、その日のテーマに添ったまとめの時間をつくって補足するとともに、参加者同士で互いに理解を深め、今後のネットワーク作りの一助になればとコミュニケーションの時間が十分に取れるよう配慮した。

3. 研修プログラムの軸

(1) 環境設定

自閉症の人たちが安心して心穏やかに過ごすためには、環境がとても大きく影響する。そこで、入所における個々の特性に合わせた配慮、働く場におけるわかりやすく見通しのつきやすい配慮等を考察する。

(2) 働くこと（日中活動）

当園では、出来ること・得意なこと・好きなことを活かし、「働きがいのある、人間らしい仕事」を提供することを目標としており、20種目を越える作業が用意されている。実際の作業体験を通じて、働くことの大切さと一人ひとりの可能性を高める支援について考察する。

(3) 委員会活動

当園では、法人内の横断的な連携の取り組みとして11の委員会活動がある。その中から、支援が難しいとされる自閉症児（者）にとって特に重要であろうと思われる「個別支援委員会」、「人権擁護委員会」の活動を紹介する。

(4) 地域生活支援

地域の中で自閉症の方たちが多くの人たちの助けを借りながらも、自立した生活ができるよう援助している。また、地域社会そのものに働きかけて、より多くの人たちが自閉症について理解を深め、支援の輪に参加できるよう取り組んでいる。支援センターやグループホームの取り組みを通じて地域生活を支える支援について考察する。

4. 実務研修プログラム

| 曜日 | | | | | | | |
|----|-----------|-----------------------|----|--------------------|-----------------|-----------------|---------------|
| 月曜 | | | 受付 | 開講式 オリエンテーション | 講義 めひのの自閉症支援 | | 意見交換 |
| 火曜 | オリエンテーション | 生活介護実習 (生産活動) | 休憩 | 創作活動実習 絵画・書道教室 | 講義 環境設定 | 講義 人権擁護 | まとめ (生活支援) |
| 水曜 | | 就労支援実習 (生産活動) | 休憩 | 就労支援実習 (移行支援含む) | 講義 個別支援 | 講義 支援センターの活動 | まとめ (就労支援) |
| 木曜 | | 就労支援実習 (販売・地域交流) | 休憩 | 就労支援実習 (移行支援含む) | 講義 地域生活 | 余暇活動 和太鼓 | まとめ (地域支援) |
| 金曜 | | 実習(選択) (生活支援・生産活動) | 休憩 | 閉校式・まとめ 意見交換 | | | |

5. 研修を終えて

この研修も3年目を迎え、回を重ねる毎に参加者の学ぼうとする意識が高まっている印象を受ける。この研修が、周知されてきていることの現れのように思う。そこで、一方的な情報提供ではなく、一人ひとりの研修ニーズに応えるように心がけた。

受講者からは、「特性に合わせた環境、作業が提供されていた。」、「働くこと(すること)がある、居場所があるということがうらやましかった。」、「自分で理解し取り組んでいて、安心が保障されていた。」、「利用者さんが生き生きとしていて、自分の仕事に責任と誇りを持っていた。」などの声も聞かれた。当園が取り組む利用者を正しく理解し、出来ること・好きなこと・得意なことを活かした仕事を創り出すことの大切さを伝えることが出来たのではないかと感じている。

参加者の中には、積極的に職員に声かけし、トップの理念がどの程度現場に浸透しているかを確認する人もいた。また、「良い気付きに感謝。どの様に現場に伝えていくかが課題である。」との声もあった。どの現場においても人材育成が課題となっているようだ。

現場の背中を後押しし、活気力を高める仕組みが必要であり、それがスーパーバイザーの役割でもあると思う。この研修がますます充実したものになり、現場を元気にする人材が、地域にたくさん育成されることを願っている。

発達障害支援スーパーバイザー養成研修 実務研修報告

自閉症総合援助センターあさけ学園
施設長 近藤 裕彦

1. 研修者の受け入れ状況

平成28年度は、①平成28年8月30日～9月3日、②11月14日～18日、③12月5日～9日の3回に分けて合計12名を受け入れた。研修者の所属する事業所の種別は入所施設3名、通所施設6名、相談支援事業所2名、特別支援学級の教員1名で、このうち全日本自閉症支援者協会の加盟施設の職員は1名のみであった。

2. 各研修機関の事業の概要

自閉症総合援助センターあさけ学園では、以下の(1)～(6)の支援機能を一体的に運用し、自閉症のある人たちへの総合的なアプローチを進めている。今年度の研修プログラムは、特に(1)～(3)の現場での臨床実習を中心に取り組みられた。

- (1) あさけ学園（入所）…施設入所支援・生活介護40名。ユニット化した小集団の居住環境を活用し、24時間を通じた生活支援プログラムを提供する。
- (2) ワークセンターひのき（通所）…就労継続支援B型・生活介護40名。利用者は自宅やあさけホームから通勤し、労働・作業を中心とした日中活動へ参加している。
- (3) あさけホーム（グループホーム）…21名（4棟で構成）。日中活動の場（ワークセンターひのき）と協力して地域生活支援プログラムを展開する。
- (4) 短期入所…4名（あさけ学園に併設）
- (5) 三重県自閉症・発達障害支援センターあさけ…専門的な相談機関として、地域の発達障害のある人たち、家族、関係諸機関への相談・発達・就労支援を行なう。
- (6) あさけ診療所（児童精神科、心療内科）…自閉症や発達障害をはじめとした児童精神科外来診療、施設利用者他の医療的ケアを担当している。

3. 実務研修プログラム

| | 8:30 | 9:30 | 12:00 | 13:00 | 14:00 | 16:00 | 16:30 | 17:00 |
|------|------|----------------------|-------|----------------------------|-----------------------|--------|-----------------|-------------|
| 第1日目 | | | 集合 | オリエンテーション 見学・質疑応答 | あさけ学園（受注→居住棟） 現場実習 | | | 意見交換 まとめ |
| 第2日目 | 引継 | カンファレンス 支援の具体的方法等 | 休憩 | あさけ学園（受注作業→居住棟） 現場実習 | | | | 意見交換 まとめ |
| 第3日目 | 引継 | あさけ学園（オリジナル） 現場実習 | 休憩 | あさけ学園（オリジナル作業→居住棟） 現場実習 | | | | 意見交換 まとめ |
| 第4日目 | 引継 | ワークセンターひのき 現場実習 | 休憩 | ワークセンターひのき 現場実習 | | 休 憩 | グループホーム 現場実習 | |
| 最終日 | 引継 | 意見交換 最終まとめ | 終了 | | | | | |

4. 研修を終えた参加者の感想

参加者の感想について、研修最終日の「意見交換・最終まとめ」での発言内容や、終了後に届いた「発達障害支援スーパーバイザー養成研修：報告書（実務研修講義）」のコピーによって詳細に振り返ることができた。概観すると、「ここで学んだことはすぐに現場で活かせるものばかりだった。自分の現場でも役立てていきたい」とのこと。おそらく第2～4日目の現場実習の当日、朝の引き継ぎから参加してもらい、夕方の意見交換・まとめを担当する職員と一緒に全日現場に入り、その職員と利用者や他の支援員とのやりとりを観察した後、その日の意見交換にのぞむ体制を取ったことが、具体的なスーパーバイズの一事例となり、分かりやすかったのではないかと考えている。

最後に、上記した報告書のコピーを一番早く送っていただいた方の文章を原文のまま掲載して参加者の感想に替えさせてもらうことをお許しください。

今回3日間の施設実習と2日間の実務研修に参加させていただき、スタッフさんには細かく丁寧に対応していただき感謝申し上げます。また、利用者さんには緊張と不安を与えていたのではないかと思います、ご迷惑をおかけ致しました。

私は大学を卒業してこれまで、（勤務先名称）一筋に働いてきました。また、その間今回のように他事業所施設で実習する経験もなかったので、あさけ学園の取り組みに感心を抱いた一方で、疑問を感じた場面もありました。

感心を抱いた場面として、利用者さんが感情的になって大声をあげていても、どのスタッフさんも感情的にならず淡々と一貫した対応を取っていたことです。それは朝礼で利用者さんの情報が丁寧に引き継がれていたため、その結果としての対応が取られていることと感じました。また、スーパーバイザーの先生が現場に入り、直接スタッフの指導を行う研修システムも、一貫した対応が保障されていく方法だと感じました。

疑問を感じた場面として、朝礼などで利用者さんの名前を呼ぶ場面で「〇〇くん」と呼ぶスタッフや「〇〇さん」と呼ぶスタッフが混在していて、権利擁護の研修会等で利用者を「〇〇さんと呼ぶこと」と学び、また、お子さんを会議等で呼ぶ時にも「〇〇さん」と呼ぶように心がけているので、親しみを込めて「〇〇くん」と呼んでいらっしやると感じながらも、権利擁護の視点で聞くと違和感を抱きました。

この5日間の研修で強く感じたのは、別の事業所でじっくり腰を据えて過ごすことで日々の実践を振り返るきっかけになったことと、新たな価値観を学ぶことで自身の視野が広がり仕事内容の厚みが増してきた気がしています。例えば早食いの問題では、幼児期からその傾向があれば将来便秘等で悩まなくてすむように早めに対処していくこと。また、日々の生活で身体に力を入れてしまうことが多くあるのであればその都度身体を抜くように働きかけることや、リラックスした身体の状態を利用者自身が体得できるように支援していくことなどを学びました。

私は現在、発達相談を担っています。今回の実習では将来、子ども達が安全で健康に自分らしく生きる力を培っていただけるように、将来を見据えた発達支援を提供していきたいと強く感じました。

平成28年度 発達障害支援スーパーバイザー実務研修 報告

| | | | | | | |
|-------------|---|-----------------|-------------------------------------|-----------------------|---|-------------|
| 実施機関名 | つくしの会 | 担当者職氏名 | はぎの郷施設長 袖野 完 | | | |
| 連絡先住所 | 〒 ー 石川県河北郡津幡町字別所へ 番地 | | | | | |
| 電 話 | ー ー | F A X | ー ー | | | |
| E | | | | | | |
| 特 色 | <p>はぎの郷入郷者の生活支援、療育支援、強度行動障害療育、ノーム通所者の就労支援、療育支援、生活相談、 の在宅支援を行っています。又、県自閉症協会の年少児の在宅支援・相談支援にも関わっています。</p> <p>発達障害者支援センターでは、幼児年少期から青年成人期まで幅広く、相談支援、発達支援、就労支援等を行っています。</p> <p>自閉症の総合機関として、発達障害児者支援・療育の啓発を図ると共に、人材・機関を育成し、発達障害を持つ人々が安心して暮らせる社会環境の構築に取り組んでいます。</p> | | | | | |
| 事業の概要 | <p>障害者支援 自閉症者療育 施設 はぎの郷 生活介護40名、施設入所支援40名</p> <p>就労支援施設 ジョブスタジオノーム 就労継続支援B型20名</p> <p>グループホーム すぎな 介護サービス包括型共同生活援助事業7名</p> <p>石川県発達障害者支援センター パース 相談支援、発達支援、就労支援、普及啓発、支援者養成他</p> | | | | | |
| 実 務 研 修 日 程 | | | | | | |
| 1回目 | 平成28年10月17日（月曜日）～平成28年10月21日（金曜日） | | | | | |
| 回目 | 平成28年11月14日（月曜日）～平成28年11月18日（金曜日） | | | | | |
| 回目 | 平成28年12月12日（月曜日）～平成28年12月16日（金曜日） | | | | | |
| 曜 日 | | | | | | |
| 月曜日 | | | 受 付 | 自己紹介 近況報告 施設見学等 | 総論： 「つくしの会」の思想（講義） 自閉症者支援の実態（討論会） | |
| 火曜日 | 講義・演習 パース ～ リハビリセンター 「発達障害支援ネットワーク」 | 昼食 はぎ 休憩 | 臨床実習 はぎの郷 食後・歯磨き等 活動：軽作業・織物・他 | 入浴 喫茶 余暇 | 〈事例検討 はぎの郷 ～ さん（橋場） | |
| 水曜日 | 朝エンテ ーション 臨床実習 ノーム 朝の会、活動 | 昼食 はぎ 休憩 | 臨床実習 ノーム 活動：製菓、フック カフェ | 【検討】 作業活動 について | 〈事例検討 はぎの郷 ～ さん（辰野） | |
| 木曜日 | 朝エンテ ーション 臨床実習 はぎの郷 朝の会、掃除、 創作活動 | 昼食 ノーム 休憩 | 臨床実習 はぎの郷 療育活動 | 【検討】 療育活動 について | 【意見交換会】 ～ 日中活動の在り方 | 懇 親 会 |
| 金曜日 | 朝エンテ ーション 【 発表】 & 【討論会】 「つくしの会における自 閉症支援への提言」 | 昼食 はぎ 休憩 | 閉講式 | | | |

※講義及び最終日のまとめ・意見交換は各施設長・センター長が対応します。

1. 実務研修を受け入れるにあたって

当法人の「SV実務研修」の受け入れは2年目である。今回は3回で計7名の受け入れであった。

昨年の受講者の皆さんからの意見を真摯に受け止め、この一年、意識改革、専門性の向上等に努めてはきたが、この一年を評価されるという意味でも、外部の力ある現場の研修者を受け入れるのはとても緊張することであった。

研修に来る方たちは初めての場所であるが、私たちにとっては「外部の目で見定められる」試験の場であるという覚悟で、とにかく今あるものを全部見てもらって、忌憚のない意見を頂いて、次への課題解決への足掛かりにしたいという強い思いで受け入れた。

昨年同様、私達の現場研修の意図は「スーパーバイザーになって帰ってもらう」ことなので、とにかく私達が現場で日々悩んでいることや、手詰まりになって解決の糸口が見えなくなっている課題をそのまま研修者にぶつけて意見を貰う。半端な意見なら逆にダメ出しをする、更にきつい苦言を貰う。このやり取りの中で、お互いが成長できる場になればこれほど嬉しいことはない。

現場実務研修なので、現場の事例検討を中心に、問答形式の研修とした。

2. 実施期間、受入人数

①H28年10月17日(月) ～ 21日(金) 3名

②H28年11月14日(月) ～ 18日(金) 2名

③H28年12月12日(月) ～ 16日(金) 2名

3. 研修を終えて

今回3回の受け入れとなったが、研修の方々の為に十分な人員を割けなかったことを反省している。日々の現場対応をしながら、別枠で研修を行っていくというのは、私達のような小さな法人施設にはかなりきつい現状がある。

今回も力ある方々に、はるばる研修に来て頂いたのだから、何か持ち帰ってもらいたいという思いは常にあった。研修に十分な人が割けなかったという申し訳なさはあったが、内容としてはその時々で深く入り込んだ討議ができたことは良かったと思っている。

また、一年間の評価としての研修と捉えると、昨年と全く同じ意見をもらった事例もあったので、私達としては取り組みの甘さを大いに反省すべきことでもあり、反面外部の目が入るということは、こんなにもクリアーに評価されるのかという驚きもあった。私達の収穫は大きく喜ばしい。

ただ、今回研修者2名ということが2度続いたのは残念だった。

この研修は、研修に来た人たちが「はぎの郷」という材料を使って、熱く討論する交流の場でもあるので、やはり研修者は4名くらいいたほうが話も広がり、お互いの意見交換にもなり、普段現場ではできない議論のぶつかり合いもできるので、次回できるならば多人数での受け入れをしたいと思う。

来年もまたやるのか…と思うと、本当にしんどい気持ちが先立つが、終わってみると受け入れ施設として、実りの多い沢山の課題と財産を頂ける研修なので、自分たちの為と思い踏ん張って受け入れていきたいと思っている。

平成28年度 発達障害支援スーパーバイザー実務研修受け入れ

社会福祉法人 北摂杉の子会 総務部 河辺太一

北摂杉の子会では9月と11月に各4日間、12人の方を受け入れた。

受け入れに際して、以下の事を念頭に置いた。

1. 企画の段階での北摂杉の子会での確認事項

- ①スムーズな運営ができるように、十分に事前準備を行うようにする。
- ②情報共有をしっかりと行い、ミスのないようにする。
- ③事前に様々な事項の確認を行い、参加者が研修に集中できるようにする。
- ④ありのままの施設運営を見てもらうように、オープンな環境作りに努める。
- ⑤参加者同士、受け入れ事業所との懇親を深めるためのプログラムも用意する。

2. 実務研修プログラム

| | | | | | | |
|-----|-----------|---|----|------------------------|---|---|
| | : : | | | | | |
| 初日 | | | 受付 | | : : 開講式・オリエンテーション 法人本部 講義 北摂杉の子会の概要と支援のあり方 | : : 意見交換会 |
| 2日目 | オリエンテーション | : : 臨床実習 グループホーム レジデンスな さはら | 休憩 | オリエンテーション | : : 臨床実習 萩の杜 | : : 講義「行動障害の支援」 萩の杜 |
| 3日目 | オリエンテーション | : : 臨床実習 J J おおさか | 休憩 | オリエンテーション | : : 臨床実習 ジョブサイトよど | : : 講義「自閉症者の就労支援」 J J おおさか J S よど |
| 4日目 | オリエンテーション | : : 臨床実習 自閉症療育センター | 休憩 | : : 閉講式・まとめ 意見交換 | | |

3. 実施してみて分かった課題と今後の対応

①情報の事前発信

※参加者に対して、事前にFAXで必要な情報を発信した。そのため、混乱なく研修に臨めたとの声をいただいた。

②施設への移動の問題

- i 公共交通機関では不便な施設への移動は施設担当者が車で送迎を行う。
- ii 最寄り駅からの案内は、視覚支援の1つとしているホームページ内の写真案内を利用したことで問題なく行えた。また、支援方法としても有益だとの声もいただけた。

③意見交換の方法について

- i 懇親会を企画した。参加者間の意見交換や交流にも役立つと好評を得る。
- ii 閉講式にも質疑応答の機会を持ち、情報の整理を行った。



4. 実務研修プログラム

運営に関するトラブルはほとんどなく、研修のパッケージ化がうまく機能していたのではないかといえそうである。

受講者からも、

「楽しみにしていた研修であったが、その期待を上回る内容であった」

「今回の研修で身につけた支援方法を、自分の事業所に持ち帰って、実践していきたい」

という感想をたくさん頂戴できた。

懇親会も、様々な事業所での課題点に関して積極的な意見交換ができたようで、好評であった。

この研修が、全国の自閉症・発達障がい・知的障がいのある方々への支援の質が向上することにつながることを祈念している。

【報告書】平成28年度 発達障害支援スーパーバイザー養成研修 実務研修受け入れ

平成29年5月29日
障害者支援施設 あかりの家
支援部 課長補佐 尾崎勇一

1. 受け入れ期間及び人数

| | 期 間 | | 日数 | 人数 |
|---|-----|---------------|-----|-----|
| ① | 9月 | 5日(月)～9日(金) | 5 | 5 |
| ② | 10月 | 3日(月)～7日(金) | 5 | 6 |
| ③ | 12月 | 12日(月)～16日(金) | 5 | 5 |
| 計 | | | 15日 | 16人 |

(※) 16人の内訳として、県内5人、県外11人
北海道1名 愛知2名 富山1名 大阪1名 兵庫5名
岡山2名 大分2名 徳島2名



2. 受け入れに際しての法人内の確認 (通年)

- (1) (自閉症総合援助センターを掲げる法人として) 法人全体で取り組む。
- (2) (この受け入れを機会に) より客観的で体系的な、施設と支援の説明言語を作り上げる。
- (3) (この受け入れを機会に) 地域等での支援者養成に乗り出す第一歩とする。
- (4) (支援のプロたちに見られることによって) 自分(達)の支援を客観的に見る機会とする。
閉じたり飾ったりする説明は避け、オープンで率直な説明に努める。

3. 受け入れ体制

- (1) 初日のオリエンテーションを始め、日々の反省会など、施設長以下、主任等で対応する。
- (2) 駅から徒歩30分を要する移動手段 → 最寄り駅とあかりの家との送迎を毎日行う。
- (3) 5日間の宿泊場所 → 宿泊可能人数は少ないが、希望があれば地域交流ホームを提供する。
→ H28年度の宿泊は無し。
- (4) 研修プログラムづくり → 下記の通り
- (5) 和やかで率直な意見交換ができる雰囲気作り → 初日夜に懇親会を設定。お互いが言いにくいことの中に“支援の大事な要素”があるとの考えで、夕方の反省会を共に有意義な場とする。

4. 実務研修プログラム

- ・あかりの家の自閉症支援→キーワード→相談支援事業所あいあむ→発達障害支援センタークローバー→児童デイサービスといった流れでの講義を実施。
- ・臨床実習としては、各作業活動に加え、体操活動、トモニ活動、(クラブ・整体)への参加見学を実施。
- ・4日終了時には、受講者間でのフリートークの時間を設け、ネットワーク作りも兼ね、最終日に向けて受講についての率直な意見を受講者間のみで話し合ってもらうことを行う。
→最終日の閉講式での意見交換における質疑応答にも有用。

| | 9:00 | 12:00 | 13:00 | 13:30 | 14:30 | 15:30 | 17:00 | 17:30 |
|-----|---|-------|---------------------------------------|---|---------------------------------------|-------|-------------|---------------|
| (月) | | | 受付 | 開講式・オリエンテーション(施設見学含む) 講義1「あかりの家の自閉症支援」 | | | 意見交換会 | 18:30～ 懇親会 |
| (火) | 臨床実習 あかりの家 (引継ぎ→ランニング→①プラグ班、②軽作業班) | 休憩 | 講義2「行動障害のある人たちへの支援ー自閉症療育のキーワード集を通してー」 | | 事例検討ーリハビリ的ショートステイー | | まとめ意見交換 | |
| (水) | ①臨床実習 ワークホーム高砂 ②臨床実習 あかりの家 (引継ぎ→ランニング→プラグ班、軽作業班、さわり班) | 休憩 | 臨床実習 あかりの家(体操活動) | | 講義3「自閉症の人たちの地域生活支援」地域支援センターあいあむ | | まとめ意見交換 | |
| (木) | ②臨床実習 ワークホーム高砂 ①臨床実習 あかりの家(プラグ班、軽作業班、割箸班) | 休憩 | 臨床実習 あかりの家(トモニ活動) | | 講義4「発達障害者支援センターの取り組み」発達障害者支援センタークローバー | | 受講者間のフリートーク | |
| (金) | 臨床実習 あかりの家 (引き継ぎ→ランニング) 臨床実習 児童デイサービス あかりの家 | 休憩 | 閉講式・まとめ意見交換 | | | | | |

5. 研修受け入れにおける調整事項として

- ・ホテルの宿泊先を指定する形をとるか？その場合、受講者間の交流が深まるメリット有り。
- ・閉講式を最終日の午前中で終わらせるようにしてはどうか？（11：30～12：30）
→遠方からの受講者への配慮として必要。反面、5日間の研修のまとめとしての閉講式の重要性を考えると十分な時間確保の為に、午後からの実施が良いという考えもある。
※次年度以降の調整。変更事項として検討。

6. 研修受け入れにおける法人全体の課題

研修生に多くを学び、感じてもらうことはもちろんではあるが、受け入れ側としても、この研修を通じて自分たちの仕事への向き合い、自分たちの実践を振り返り、見直すことで気付く課題、自分たちでは気づけない日常的な業務の課題などを、受講生から率直に意見してもらうことで、現状に満足せず、常に一步前に進んでいけるように考え続ける機会にもなっている。



しかし、年間に3回5日間、合計15日の受講生の受け入れには、職員の余力という意味で、負担感が始めている。参加職員を減らすなどを含め、受け入れにおける課題の整理と効率化といった問題も意識しておく必要はある。

逆にこの機会に、あかりの家の療育への思想、利用者への向き合い、チーム作りの重要性、常に捉えなおしていくバージョンアップの思想など、それらを改めて、今のあかりの家のリーダーとして再確認する場として、非常に意味のあるものと考えたりもする。これらを、自分たちの言葉で語るができなければならない。幅広く多くの職員が受け入れに対して対応できるような体制、知識、説明言語の向上がまだまだ必要ではあるとも感じている。

7. まとめ

3年間で46名の受講者を9回の研修で受け入れを行ってきた。あかりの家の成長にも必要な研修でもあることはもちろんであるが、発達障害者支援における支援者の不足といった問題においても重要な研修でもありと考えている。日本におけるスーパーバイザーの在り方、活用方法などをはじめ、まだまだ知識や技術の普及が必要な今の発達障害をとりまく状況に、一人でも多くの専門的な知識と技術、そこに支援者として思想と倫理観をもった職員がそれぞれの地域に存在し活動することで、身近な地域から発達障害福祉の現状が変化していることを期待したい。

そういった期待において、発達障害支援スーパーバイザー養成研修を受講、終了された人たちがどう地域で活動されるのか。研修を受けたからといってすぐにスーパーバイザーとして活躍できるわけではない。研修での学びを下に常にそれぞれが専門性を磨き、向上していく姿勢を忘れず地域で活動していくことが本来の目的として必要なのだと思う。

この研修は、そのきっかけにすぎないのかもしれない。私自身も含め発達障害支援スーパーバイザー養成研修を受けられた方々の活発な活動を期待していきたく、その為にも、次年度以降の実務研修においても十分な準備を行い、お互いにとって有意義な研修にしていきたいと考えている。

平成28年度 発達障害支援スーパーバイザー養成研修 実務研修報告書

社会福祉法人 三気の会
障がい者支援施設 三気の里

1. 実績

| | | |
|----|----------------------|---|
| 回目 | 平成 年 月 日 (火) ~ 日 (金) | 名 |
| 回目 | 平成 年 月 日 (火) ~ 日 (金) | 名 |
| 回目 | 平成 年 月 日 (火) ~ 日 (金) | 名 |
| 回目 | 平成 年 月 日 (火) ~ 日 (金) | 名 |

2. 目的

発達障害支援スーパーバイザー養成研修を通し、県内外の障がい児者支援に携わる関係者を受け入れることで、三気の会の啓発と透明化を図り、自身の学びの場として位置づけ、法人、チーム、個人の力量を上げるものとする。また、三気の会がどのような位置にあるのか知る機会とし、その中で、三気の会としての特色を見出していく。

3. 意義

- ・ 自閉症に関わる施設として、協議会および社会に貢献する。
- ・ 施設の透明化を図る。
- ・ 支援を見直す。
- ・ 情報を整理し、説明する術を学び、説明責任を果たす。
- ・ 三気の会の立ち位置を知る。
- ・ 受講者から学ぶ、一緒に学ぶ。
- ・ 三気の会の誰もが対応することができるようになる。

4. 内容

- ・ 各事業所の業務説明
- ・ 各事業所の見学および臨床実習
- ・ 動作法の実技講習
- ・ 強度行動障がいへの取り組み
- ・ 熊本地震報告
- ・ 被災地見学
- ・ 受講者との情報交換

5. プログラム

| 曜日 | | | | |
|----|--|----|--|----------|
| 火 | ～開講式、オリエンテーション 講義「施設紹介」「三気の里の療育」 | 休憩 | 臨床実習 「障がい者支援施設 三気の里」 講義「強度行動障がいの療育」 被災地見学 | ～ 懇親会 |
| 水 | 臨床実習 「児童発達支援センター 三気の家」 | 休憩 | 臨床実習 「児童発達支援センター 三気の家」 | |
| 木 | 臨床実習 「地域活動支援センター アンパ」 「相談支援事業所 たんぼぼ」 | 休憩 | 臨床実習 「熊本県北部発達障害者支援センターわっふる」 | 見学 |
| 金 | 実技講習「動作法」 事例検討会 | 休憩 | 閉講式、まとめ ※ 終了予定 | |

6. 受け入れを終えて

SV研修の受け入れをして3年になり、プログラムや受け入れ体制も安定してきたように感じる。プログラムが安定してきたことは良い反面、いろいろな立場の受講者を受け入れる中で、受講者に応じてプログラムの内容を変える等、臨機応変に対応できると良いのではないかと感じている。SVは幅広い知識を必要とする為、何かに特化したものでなければならないということはないが、受講者の多くは自分達の事業所に持ち帰る何かを探しに実務研修を受けていることも一つの事実と捉えると、受講者のニーズにも応じることは受ける側、受け入れる側双方にとってメリットのあることだと感じた。

昨年度は熊本地震の被害に遭い、研修の受け入れを火曜日にしたことで、ゆとりある研修を実施できたように感じている。また、プログラムに「地震報告」と「被災地見学」を取り入れた。受講者の中には危機管理責任者の方もおり、「地震報告」で多くのことを学び、施設に持ち帰ってマニュアルの見直しや、避難訓練のあり方を考え直すという声を頂いた。被災して経験したこと、今後活かしていきたいことを伝えることが出来たという点は大変良かったと思っている。

実務研修は研修を受け入れる側にとって、自分達の施設・自分達の支援を見直し、力量を上げる大きな機会である。その為、中堅スタッフを中心に研修を行い、自分達の施設・自分達の支援を言語化できるようにさせて頂いた。その点、受講者にはご迷惑をお掛けすることになったことは反省すべき点かもしれない。その反省を活かし、さらに良い研修を実施することができればと思っている。また、受け入れを行うことで、逆に受講者から学び、吸収し、さらに良い施設となるよう努めていきたい。

平成28年度 発達障害支援スーパーバイザー養成研修 「社会福祉法人 萌葱の郷」実務研修報告書

社会福祉法人 萌葱の郷
自閉症総合援助センター
事務長 原田 竜二

1. 実務研修の概要

当法人は『自閉症総合援助センター』として、早期療育・療育支援・生活支援・就労支援・余暇支援・相談支援・普及啓発・専門家養成等の機能をライフステージを通して総合的に提供し、自閉症を中心とする発達障がいのある人たちの豊かな育ちと暮らしを実現することを基本理念としている。そして、単に適応や行動が改善されれば良しとするのではなく、発達障がいに対する理解と専門性を深め、肯定的な態度で接することで、安心感に基づく信頼関係を築き、支援者の態度や支援のあり方を振り返り、援助技術の不断の研鑽を重ねて支援することを法人職員全体の共通認識として日々の支援に携わっている。

<各事業所>

- ☆ 障害者支援施設 めぶき園（生活介護40名 施設入所支援30名 短期入所4名）
- ☆ 障害福祉サービス事業所 どんこの里いぬかい（生活介護10名 就労継続支援A型10名 就労継続支援B型10名）
- ☆ 共同生活援助事業所 グループホームかわしま（共同生活援助事業10名）
- ☆ こども才能支援センター なごみ（児童発達支援 放課後等デイサービス 保育所等訪問）
- ☆ 大分県発達障がい者支援センター ECOAL（相談支援 就労支援 発達支援 普及啓発 支援者養成）
- ☆ ホームヘルプサービスセンター らすかる（居宅介護 行動援護 移動支援）
- ☆ こども発達支援センター 大分なごみ園（児童発達支援 放課後等デイサービス 放課後等訪問）
- ☆ 相談支援事業所 プラス（地域移行支援 地域定着支援 特定相談支援 障害児相談支援）
- ☆ いぬかいこども園（通常保育 乳児保育 障害児保育 延長保育 一時保育）
- ☆ こども発達・子育て支援センター なかよしひろば（児童発達支援 放課後等デイサービス 保育所等訪問）

2. 研修生の受け入れ状況

当法人では、月曜日から金曜日までの5日間で事業所ごとに講義と臨床実習という形式で実務研修を実施した。下記の日程で合計22名の研修生を受け入れた。研修生の所属事業所種別は、入所施設（成人・児童）・児童発達支援センター・発達障がい者支援センター・障害福祉サービス事業所、保育園、特別支援学級教諭、医療関係等であり、管理者やサービス管理責任者等で経験年数も豊富な方が多かった。

| | | |
|---------------------------|----|--------|
| ①平成28年 8月22日（月）～ 8月26日（金） | 5名 | |
| ②平成28年 9月12日（月）～ 9月16日（金） | 5名 | |
| ③平成28年10月24日（月）～10月28日（金） | 6名 | |
| ④平成28年11月14日（月）～11月18日（金） | 6名 | 合計 22名 |

※22名の内訳 県内 5名 県外 17名（都道府県別は下記参照）

東京都1名・千葉県1名・静岡県1名・愛知県1名・大阪府1名・兵庫県2名・奈良県1名
徳島県1名・福岡県2名・長崎県1名・熊本県2名・宮崎県1名・鹿児島県2名

3. 実務研修プログラム

| | | | | | | | | | | | |
|----|---|---------------------|-------|-------|-------------------------------|---------------------------------|------------------------------|-------|-------------|-------|-------|
| 曜日 | 0 10 00 | | 11 00 | 12 00 | 1 00 | 1 00 | 1 00 | 16 00 | 1 00 | 1 00 | 18 00 |
| 月曜 | | | | | 受付 | 開講式・オリエンテーション 講義「萌葱の郷の自閉症療育」 | | | | 意見交換会 | |
| 火曜 | オリエンテーション | 臨床実習 自閉症者施設 めぶき園 | | 休憩 | 臨床実習 自閉症者施設 めぶき園 | | 講義「強度行動障害の療育」 自閉症者施設 めぶき園 | | まとめ 意見交換 | | |
| 水曜 | オリエンテーション | 臨床実習 自閉症者施設 めぶき園 | | 休憩 | 臨床実習 どんこの里いぬかい | | 臨床実習 GHかわしま | | まとめ 意見交換 | | |
| 木曜 | オリエンテーション | 臨床実習 なかよしひろば | | 休憩 | 講義「発達障害児の早期療育」 子育て総合支援センター | | 臨床実習 なごみ | | まとめ 意見交換 | | |
| 金曜 | 講義「発達障害支援ネットワーク」 大分県発達障害児者支援センター ECOAL | | | 休憩 | 閉講式・まとめ 意見交換 | | | | | | |

4. 研修生の感想

- 常に専門施設として第一線を歩き、参考になる支援、人材育成のヒントを沢山いただいた。
- 今まで限界だと感じていた支援を、見直す良い機会となった。
- どの事業所も利用者と心を通わせている。笑顔を忘れないことなど、法人の理念を感じた。
- 意思統一された支援を行う為には、スタッフ同士が共通認識を持ち、チームとして支援する重要性を改めて感じた。
- 利用者一人ひとりの個性を尊重し、マニュアルに捉われず創造性を常に持って支援していると感じた。
- 常日頃から様子観察が極めて重要で、その上で、自閉症の特徴をしっかりと理解しておくことが必要だと再確認した。
- GHの余暇活動が充実していることに驚いた。個々のスペースが確保できており、ゆったりとした感じが見受けられた。
- 他の施設をこんなにじっくり見学する事は初めてで、色々発見もありこの経験を沢山のの人に伝えていきたいと思う。
- 様々な事業所の見学、お話をお聞きすることができ、大変勉強になった。早期療育の重要性を改めて感じた。
- 支援者が平穏な心でいること、いつも変わらぬ対応を心掛けること、「支援者とは」を考える良い機会となった。
- 講義と実習を通して、支援の考え方や実際の現場を経験することで、支援に対し新たな視点を得られたように感じた。
- 子育て総合支援センターを見学して感動し、早期療育の重要性をひしひしと感じた。
- 人との繋がりが凄く大切という講話があり、幅広い人との繋がりを深めたいと強く感じた。
- 発達障害支援ネットワークの取り組みの凄さに驚いた。全国にこのような取り組みがあれば良いと思う。

5. 研修受け入れを終えて

今年度は22名の研修生を受け入れ、現場を共有し、研修生と職員が毎日お互いに意見交換することで、職員のスキルアップ等、職員の成長においても有意義な研修となった。

実務研修は、研修事業所で講義と臨床実習を行った。また毎日の終了時と閉講式に意見交換の場を設け、研修生から活発なご意見を頂戴し、当法人職員の支援を見直す機会になった。

今後もこの実務研修を通して、支援の質を高め、利用者の豊かな育ちと暮らしや自己実現のために精進していきたい。

最後に実務研修を受け入れる側の課題としては、当法人事業所周辺には宿泊施設がなく、公共交通機関での移動が不便だったが、事前に宿泊先を紹介したり、公用車で送迎することで対応した。

発達障害支援スーパーバイザー養成研修アンケート集計結果（前期）

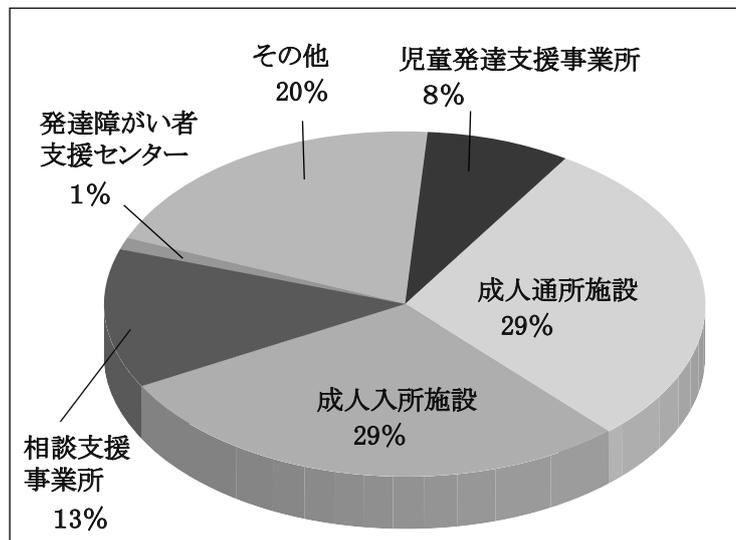
【ご参加された方の情報について】

所属

| | | |
|---|--------------|----|
| | 児童発達支援事業所 | |
| 2 | 児童入所施設 | |
| | 成人通所施設 | 24 |
| 4 | 成人入所施設 | 24 |
| | 相談支援事業所 | |
| | 発達障がい者支援センター | |
| | その他 | |
| | 合計 | 84 |

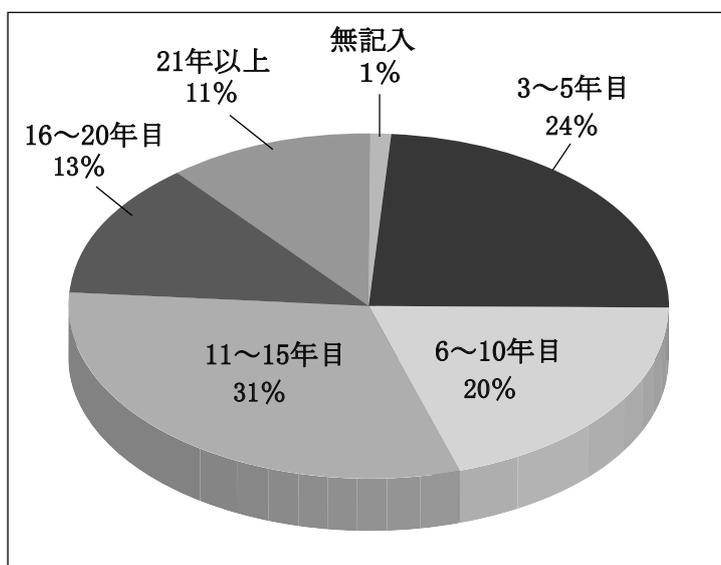
(所属が2ヶ所以上が4件あり)

| | |
|----------------|---|
| その他所属 | |
| 保育園 | 2 |
| 短期入所事業所 | 2 |
| 就労移行支援事業所 | |
| 児童通所事業所 | |
| 病院 | |
| 教育委員会こども支援センター | |
| 国立大学附属幼稚園 | |
| 支援入所 | |
| 児童発達支援センター | |
| 障害者就労継続支援A型事業所 | |
| 多機能型事業所 | |
| 共同生活援助事業所 | |
| 無記入 | |



経験年数

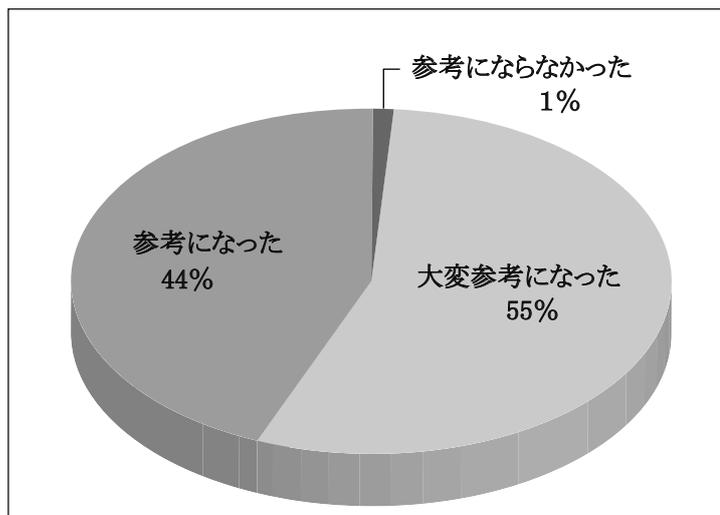
| | | |
|---|---------|----|
| | 3～5年目 | |
| 2 | 6～10年目 | |
| | 11～15年目 | 25 |
| 4 | 16～20年目 | |
| | 21年目以上 | |
| | 無記入 | |
| | 合計 | |



【講義のテーマ・内容について】

1. 発達障害の特性理解（市川 宏伸 氏）

| | | |
|--|-----------|--|
| | 大変参考になった | |
| | 参考になった | |
| | 参考にならなかった | |
| | 無記入 | |
| | 合計 | |



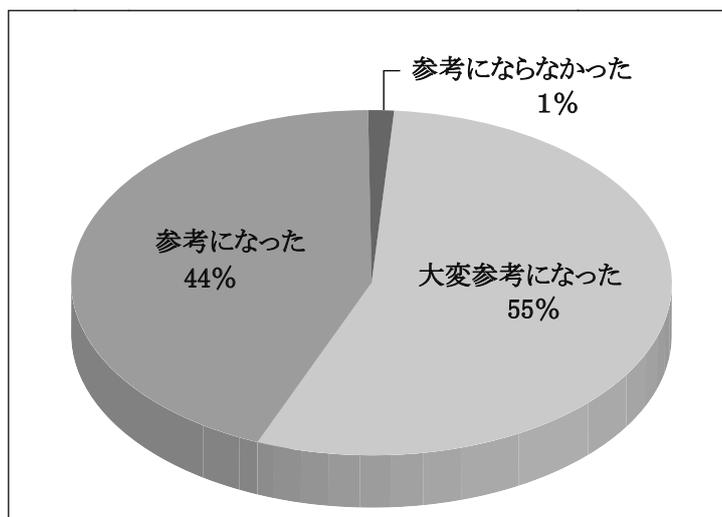
「大変参考になった・参考になった」の理由

- ・発達障がいの基礎的な部分を分かりやすく、話をしてくださった。本人の立場を尊重し、1人称で支援を進めていくことなどご自身の医療での実際の診療の実例を紹介し、興味深い話をしてくださった。
- ・特性について、とても分かりやすかったです。特性→対応の方法が、理解しやすかったです。
- ・障害の診断から、支援する上での視点などとても参考になる部分が多かった。
- ・様々な事例を交えてお話しいただき、興味深い内容でした。参考になることが多くありました。ありがとうございました。
- ・今後の支援の場において、最初にきちんとルールを伝えること、発達障害をなくすのではなく、社会不適應を減らすというお話が大変参考になりました。
- ・現場で直面しているにもかかわらず、知らないことも多々あり、勉強不足を痛感しましたのと、彼らをまだ知ることができる材料を多く得ました。
- ・市川先生のお話は、医学と福祉と教育と社会とすべてを網羅されていて、勉強になりました。
- ・市川先生が実際にされた様々なカウンセリングの例が紹介されたので分かりやすかった。
- ・以前の考え方、現在の考え方を話してくださり、驚いた点も多くあった。また、支援者側がきちんと特性を理解したうえで対応していくことの大事さを学ぶことができた。
- ・改めて必要な支援が理解でき、また、事例を通し、有効な支援方法を考えることができた。
- ・事例を多く用いて頂けたので、自分の施設の利用者さんが浮かび当てはめ身近に聞けた。

※他に34件の記述がありました。

2. 特別支援教育の課題と展望（田中 裕一氏・寺山 千代子氏）

| | | |
|--|-----------|--|
| | 大変参考になった | |
| | 参考になった | |
| | 参考にならなかった | |
| | 無記入 | |
| | 合計 | |



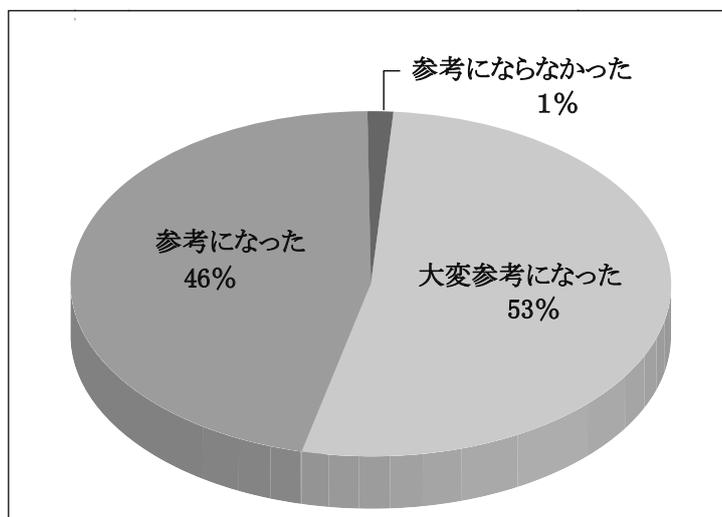
「大変参考になった・参考になった」の理由

- ・今まで特別支援教育の仕組みを知らなかったため、新たな知識の習得につながった。
- ・これから、発達障がいの人々が、教育を受けていかれるうえで、国が考える、教育のこと、社会がどのように考え、共存していく必要があるのか等、改めて考えさせられました。
- ・障害者権利条約の中のインクルーシブ教育システムや合理的配慮について詳しく話していただいたため参考になった。
- ・当施設においても、特別支援学校からの実習を多数受け入れている中、学校へのアプローチの心構え等参考になりました。
- ・特別支援学校卒業後、春から、当施設に生活介護を利用されている利用者が何名かおられ、彼ら、彼女らがどのような場所で、どのようなことを学んできたのかが少しでもわかり、今後の支援につなげていければと思いました。
- ・特別支援教育に関して、私が感じていた知っていた情報と異なっていることに、気付くことができた。話を聞くことができ、よかった。
- ・特別支援教育の仕組みがよく理解できました。相手の状況を察し、連携を深めていくことが大切だと感じました。
- ・なかなか関わることのない学校での取り組みについて、本当にわかりやすく、また、自分でも調べてみようと思えました。
- ・普段知ることのできない教員の実情を知れた。指導要綱も見てみようと思う。「平等と公平」「目的が大事」という話が分かりやすかった。
- ・合理的配慮について知ることができ良かった。目的が大事という事を改めて考えることができ良かった。
- ・私たちがスーパーバイザーとして学校とのやり取りをしていくことになる中で、学校や教員の方の立ち位置がよくわかりました。

※他に 6件の記述がありました。

3. 発達障害福祉行政の展望（日詰 正文氏・松上 利男氏）

| | | |
|--|-----------|--|
| | 大変参考になった | |
| | 参考になった | |
| | 参考にならなかった | |
| | 無記入 | |
| | 合計 | |



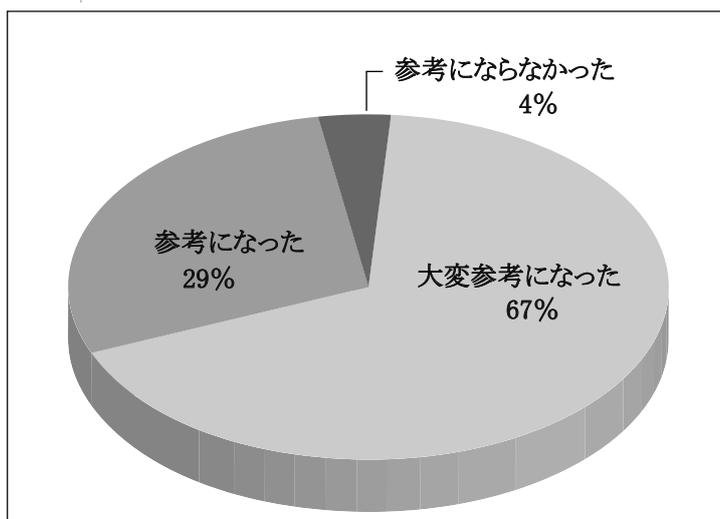
「大變参考になった・参考になった」の理由

- ・今、職場の中、支援の中で、課題に思っていることへの助言的な話もあり、勉強になりました。
- ・虐待防止の高い取り組みを自分の施設でも取り入れたいと思います。
- ・急速に需要が増えている発達障害者への対応、行政もいろいろと動いて考えていることを知りました。
- ・国の発達障害の施策について知ることができました。切れ目のない支援はとても大事なことだと思いました。
- ・今後の福祉行政の方向性や、発達障害者に対する支援者の育成課題などを知ることができ良かった。
- ・前日に文科省の話聞き、続いて厚労省の話が聞けて良かった。理解が深まった。
- ・対談式で現場の声に答えながら対応してくれたので、すごく良かったです。少しでも現場の声が届くと嬉しいです。
- ・法律の改正により変わったところ、大変わかりやすくお話しいただき、これからの福祉に希望の持てる内容でした。
- ・松上氏の今後への課題は、はっと気づかされる部分が多く、より深く考えていきたいと思った。
- ・対談形式は見ごたえ聞きごたえあり良い行政への提言と迫力ありました。
- ・発達障害者支援法、また障害者差別解消法など、自分はまだまだ勉強不足な面もあり、講義を聴くことに精一杯だったが、身体拘束などの話題にもなり、身近に感じた部分が多くありました。
- ・発達障害者支援法が施行されてから少しずつ制度が整っていった経過がよくわかった。SV養成研修の意義の重要性を理解するとともに、実施研修を受け入れて下さる事業所に対して心からありがたいと思った。

※他に26件の記述がありました。

4. 対人援助の基礎となるもの（五十嵐 康郎 氏）

| | | |
|--|-----------|--|
| | 大変参考になった | |
| | 参考になった | |
| | 参考にならなかった | |
| | 無記入 | |
| | 合計 | |



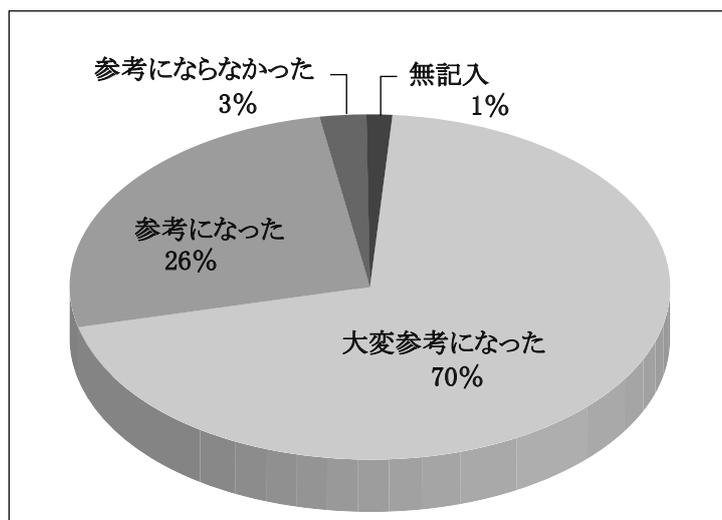
「大變参考になった・参考になった」の理由

- ・いろいろな方法、いろいろな価値観に触れなくてはいけない、そう思わせていただけた講義でした。
- ・現場の話だったので、聞きやすかった。自分の支援を振り返り、支援者の課題としてとらえる事で無限の可能性があると改めて気付けた。
- ・行動障害がある障害者の方々への支援の基礎的な考え方を学ぶことができ、自分の支援の在り方について、とても考えさせられた。
- ・支援員として一番伺いたかった、対応方法を具体的に伺うことができ、大變参考になりました。
- ・支援者の立ち位置、あり方について、改めて考えさせられた気がします。支援にかかわるすべての方々と同じ思いで同じ方向で支援できれば素晴らしい世の中になると同時に、発達障害が問題視されなくなると思いました。
- ・事例検討、紹介が、自分の現場の利用者に置き換えて、いくつかは、すぐにでも現場に持ち帰って考え、実践できる内容だったので、大きな学びになりました。
- ・たくさんの事例、とくに困難事例と言われるケースばかりで、究極の対応を求められたケースもあり、勉強になりました。五十嵐先生の熱い思いが伝わってきました。
- ・何度聞いても深く突き刺さるものがあり、心を打たれるお話でした。これからの業務にたくさんのヒントをもらった素敵な講義でした。
- ・熱意を持って支援に当たられている実体験を聞くことができ、モチベーションが上がりました。
- ・はじめて、お話を聞いた時から、発達障害児・者支援の教科書と思っていますので、新たな勉強になりました。お元気そうなので安心しました。実務研修でお世話になります。
- ・私たち、福祉の職員が忘れてはならない、福祉の現場職員として大切な、基本的な人間性の大切さを、感じ共感いたしました。

※他に2件の記述がありました。

5. 親として専門家に期待すること（今井 忠 氏）

| | | |
|--|-----------|--|
| | 大変参考になった | |
| | 参考になった | |
| | 参考にならなかった | |
| | 無記入 | |
| | 合計 | |



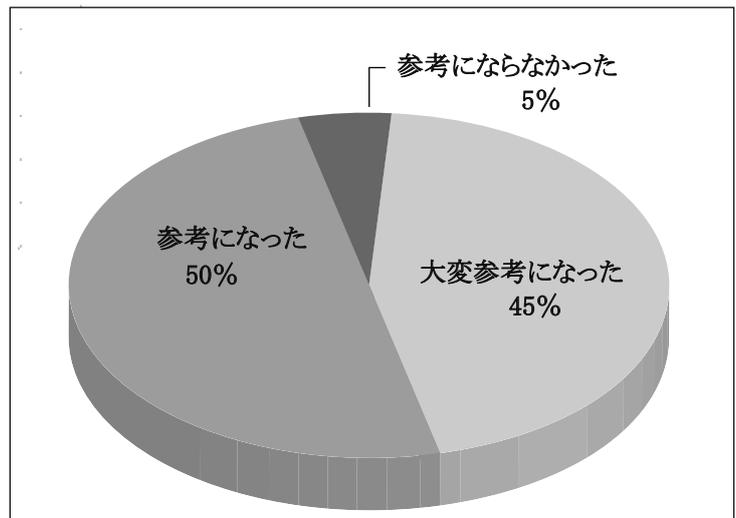
「大変参考になった・参考になった」の理由

- ・親という立場から、本当に熱心にお話しいただき、支援者に求めることがひしひしと伝わってきました。今後の参考になるお話ばかりでした。
- ・親としての思いや、支援者に対する意見などを知ることができ、普段の業務においても、親御さんの思いを受け止めつつ、支援をしなければならないと、改めて感じる事ができた。
- ・親としての立場から講義を聞くチャンスを頂けてよかったです。子育て大変だっただろうなと思い、ご家族で支えあってこられたことがお話を聞いて分かりました。ご家族へのサポートの重要性、まわりが理解していかないといけないことを再認識しました。
- ・虐待と不適切行為を区別してはならないというのが強く印象に残りました。
- ・支援することが二次障害につながる、専門家といわれる人が二次障害を作り出していることを表に出して見たときは、正直驚いた。そのような不幸がないようにするためには、法律や制度だけではなく、親や当事者の思いを聞くことが一番良い支援につながるのではないかと思った。
- ・写真も交え、その時によってのお子様の様子の変化がよくわかり、保護者としての想いや苦勞が伝わってきました。また保護者の立場から見る、福祉職員への視点は、とても冷静で貴重なご意見を伺うことができました。
- ・専門性と人間性の中で悩んでいたところが、「人間性の重要性」を説いてもらえたことが心強かった。
- ・二次障害の様子、写真を見ることができ、支援者として、今後利用者さんにどう寄り添うべきなのか考えることができた。
- ・本人からの情報、行動を見落としている部分があるなあと改めて思った。これからは、しっかり見て理解していきたい。
- ・やはり家族の言葉の重みはすべて伝わってきました。普段、職員の視点でしか見れてない事に、はっとしました。
- ・利用者さん本人を知ることは勿論のこと、親・家族を知り生い立ちを知れると、よりよい支援ができると気づかされた。

※他に 0件の記述がありました。

6. 当事者からのメッセージ（冠地 情 氏）

| | | |
|--|-----------|--|
| | 大変参考になった | |
| | 参考になった | |
| | 参考にならなかった | |
| | 無記入 | |
| | 合計 | |



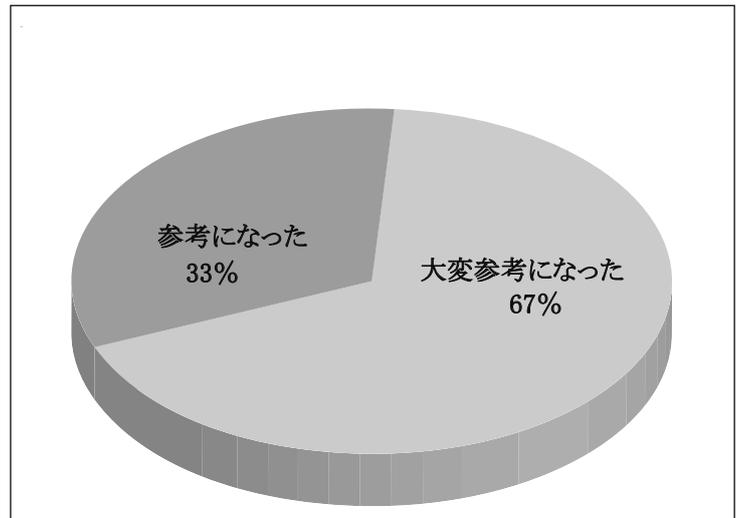
「大変参考になった・参考になった」の理由

- ・「ねばならない」を「～しよう」に変えようとしてきたプロセスが勉強になったし、熱意を感じた。
- ・ADHDと診断され、活動をしている冠地さんがすごいと正直に思えた講演だった。発達障害の生きづらさ、選択肢を作ることの大事さ、それに伴うマイナス面など、私たち支援者に大事なことを伝えてくれたように感じた。
- ・冠地さんの言葉、胸につきささりました。僕が出会った子らが～しようと思う人に育っていけるようにサポートしていきたいです。
- ・声、身体、全身を大きく使い熱の入った講義をありがとうございました。「自分は全力を尽くしました。そのことに関して一切悔いはありません。」と胸を張って言い切ることができる自信を持って、人生を切り開いてほしいというメッセージが心に残りました。
- ・ご本人から発する言葉を伺う機会が、現場でなかなかなかったので、ダイレクトに一つ一つのメッセージ、言葉が胸に刺さりました。冠地さんの言葉に支援者どうのこうのは、取り除いて、人として考える時間でありました。ありがとうございました。
- ・自分の仕事へのモチベーションを高める心の在り方や、またそれが利用者の方へも生かせると感じました。
- ・楽しいお話をありがとうございました。パワーをもらえる大変素敵な講義でした。低いハードルと高いハードルの中で生まれるジレンマ、きっと今後ぶつかるであろう課題だと思います。考えさせられました。
- ・当事者の方が何を思い、どんなことに生きづらさを感じているのか、自分がどうなりたいたのかを知ることができ、今後支援していくうえで大切な視点を学ぶことができた。
- ・とても奥深い話でした。良かれと思っていても、必ず、相反する人が存在すること。常にそのことを頭に置いておくことが大切だと思いました。もっともっと聴きたいと思いました。
- ・私自身は、定型発達だが、素直に生きることの「生きづらさ」は実は誰もが抱えているところで、本当に共感できる場所が多かった。また、自分の支援を振り返りうれしかったことを思い出せた。
- ・目標を設定する前段階での「やってみよう 取り組もう」という意識を持ってもらうことの難しさに共感しました。多数になれるように携わることよりも、多数とともに共生できる取り組みを具体的に考えていくきっかけになりました。

※他に 2件の記述がありました。

7. 発達障害支援の現状と課題（和田 康宏 氏）

| | | |
|--|-----------|--|
| | 大変参考になった | |
| | 参考になった | |
| | 参考にならなかった | |
| | 無記入 | |
| | 合計 | |



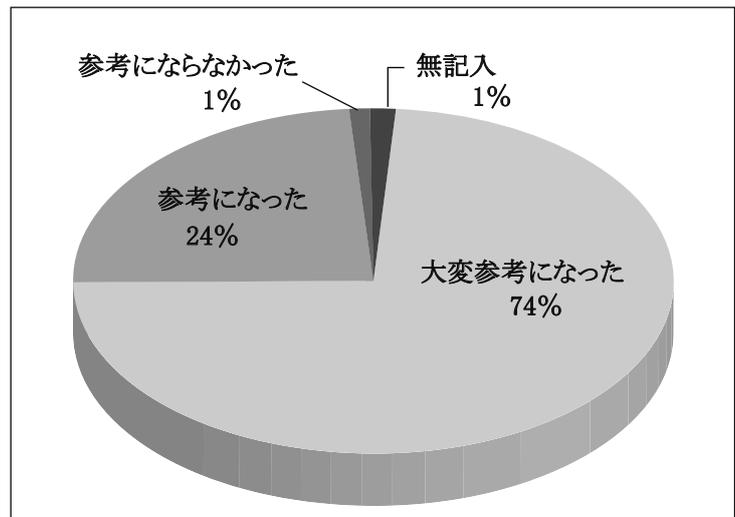
「大変参考になった・参考になった」の理由

- ・具体的な相談内容がいろいろ聞いたことで、相手の気持ちだけではなくて、育った環境なども考えるべきと思わされた。
- ・現在の相談に多い内容やその対応、そして今後の課題をととても分かりやすくお話いただき、参考になりました。
- ・現状の分析等、とても勉強になりました。もっとお聞きしたかったです。機会があれば、お会いしたいです。
- ・様々な相談のケースについて知ることができ良かった。高校～成人と一生をかけて支援の必要性があることを改めて感じた。
- ・様々な相談のケースを知ることができ、良かった。また、成人での相談内容を知ること、乳幼児期の療育の大切さも改めて感じた。
- ・支援センターの現状がよくわかりました。その中での実際と課題を基に、対応例などヒントになることを頂けたと思います。
- ・障害者支援センターの存在は知っていたが、どのような支援、業務、相談内容があるのかの詳細を知れ、学びになりました。
- ・相談支援のリアルな現状と、そのお話を聞き、仕事として興味を持ちました。
- ・発達障害者支援センターの現状や課題、他の機関との連携等の話を聞くことで、支援の対象となる方を取り巻く状況を知ることができよかった。
- ・幼～青年・成人まで詳しく講義をしてくれ、とても勉強になりました。もっと時間が欲しかったです。家族支援・ひきこもりについて、もっと聞きたかったです。
- ・利用者さんでなく、自分の身の周りの人などの事として、そのような(発達障害と伺われる人)がいるため、今後の対応等、とても参考になりました。

※他に 件の記述がありました。

8. 自閉症の動作法（森崎 博志 氏）

| | | |
|--|-----------|--|
| | 大変参考になった | |
| | 参考になった | |
| | 参考にならなかった | |
| | 無記入 | |
| | 合計 | |



「大變参考になった・参考になった」の理由

- ・以前から動作法をしていたが、誤った学習をしていたので、よかった。
- ・体・(心)の面から→脳に伝えていく方法、理論もまぜながらとても参考になりました。資格を取るためには、どうしたら良いですか？
- ・具体的な動作方法の動画があり、わかりやすく、取り組んでみようと思った。
- ・子どもとのかかわる気持ちの大切さを改めて実感し、動作法の重要性を感じた。実践していきたいと思う。
- ・実際の現場の支援について、大変活用できる内容だった。ぜひやってみたいと思う。
- ・自閉症の方と、身近に接する中で、視線を合わせられないことがあるが、動作法を通して、脳が活性化され、相手を意識することが少しずつ可能になること、興味深く聞くことができました。
- ・身体を通したコミュニケーションの大切さ、動作が整って視線が合うようになること→コミュニケーションの出発点、人付き合いの出発点。
- ・すごく面白い講義でした。新しい手法や知識を、知ることができ、実際の支援に取り込んでいきたいと思えます。
- ・動作法、初めて知りました。「前頭前野説」行動の自己調整、「扁桃体障害説」対人認知、脳機能を補うことで回路を伸ばしていくことの大切さを知りました。実際に動作法を学びたいと思いました。
- ・動作法を詳しく勉強でき、新たな道筋ができたような気がします。体を通して心を通わせる。とても素晴らしいテーマだと感じました。
- ・脳について改めて学びました。また支援者としての気持ちのあり方について参考になりました。

※他に 8件の記述がありました。

発達障害支援スーパーバイザー養成研修アンケート集計結果（後期）

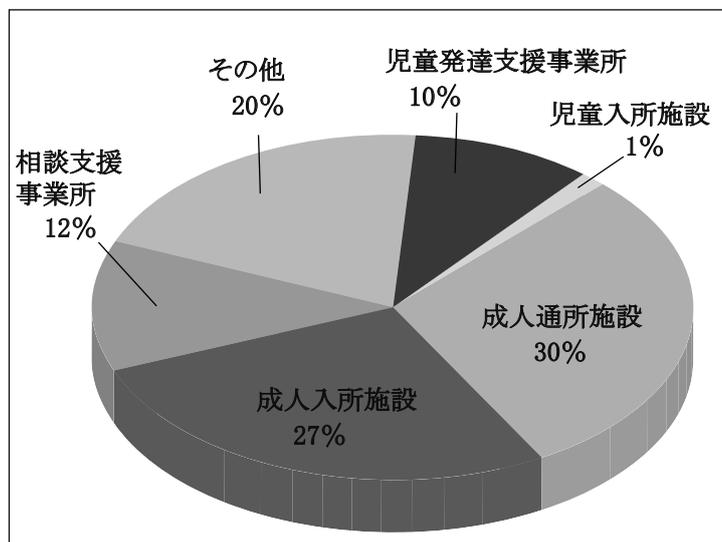
【ご参加された方の情報について】

所属

| | | |
|---|--------------|----|
| 1 | 児童発達支援事業所 | |
| 2 | 児童入所施設 | 1 |
| | 成人通所施設 | 24 |
| 4 | 成人入所施設 | 22 |
| | 相談支援事業所 | 10 |
| 6 | 発達障がい者支援センター | 0 |
| | その他 | 16 |
| | 合計 | 81 |

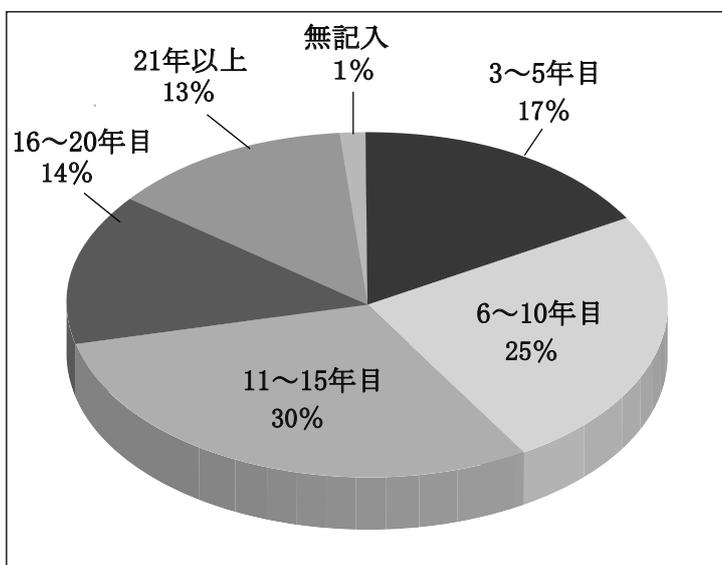
（所属が2ヶ所以上が4件あり、記述なし1件）

| その他所属 | | |
|-------|----------------|---|
| | 教育委員会 | 1 |
| | 共同生活援助事業所 | 2 |
| | 就労移行支援事業所 | 1 |
| | 障害者支援施設 | 1 |
| | 障害者就労継続支援A型事業所 | 1 |
| | 障がい者センター | 1 |
| | 短期入所(成人)事業所 | 1 |
| | 単独型短期入所事業所 | 1 |
| | 認可保育園 | 1 |
| | 保育園 | 1 |
| | 保育所等訪問支援事業所 | 1 |
| | 幼稚園 | 1 |
| | 無記入 | |



経験年数

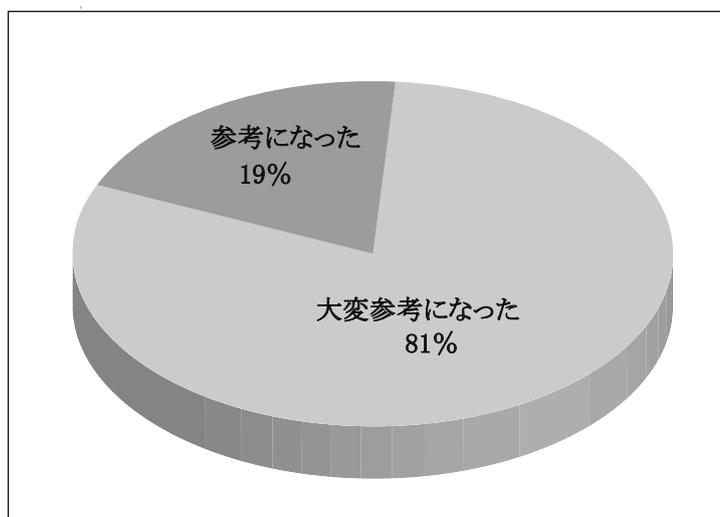
| | | |
|---|---------|----|
| 1 | 3～5年目 | 13 |
| 2 | 6～10年目 | 19 |
| | 11～15年目 | 23 |
| 4 | 16～20年目 | 11 |
| | 21年目以上 | 10 |
| | 無記入 | 1 |
| | 合計 | |



【講義のテーマ・内容について】

1. 行動問題についての応用行動分析（井上 雅彦 氏）

| | |
|-----------|--|
| 大変参考になった | |
| 参考になった | |
| 参考にならなかった | |
| 無記入 | |
| 合計 | |



「大変参考になった・参考になった」の理由

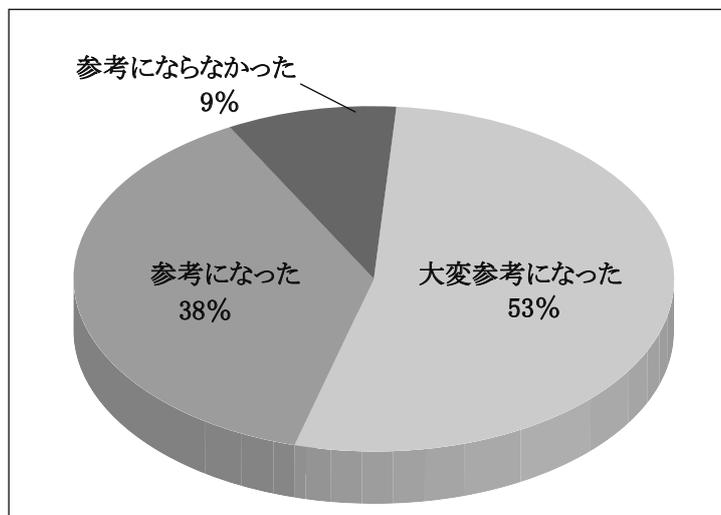
- ・問題行動といわれるものでも、さらに細分化でき、分析したところ一つ一つに対応していくことが大切ということを知った。
- ・日頃、いろいろな事業所との関わりの中で、もやもやとしていた「困りごと」感について、どのように考え、どのように伝え、どのように方向性を作っていくか?の参考となった。ストラテジーシートは大変参考となったので、自分の考え方をまとめることや支援者の育成にも使っていきたいと思った。
- ・他害や自傷など、結果的にパニックになってしまいその対処にばかり目が行ってしまっていたが、パニックの原因となる行動に目を向けることの大切さが理解できました。
- ・自分の職場の利用者が起こす行動問題が具体的に頭に浮かんできて、その背景には何があるのかを想像することができました。
- ・実践的な講義は、法人への大きなお土産になったと思います。本当に勉強になりました。
- ・施設で研修内容に入りたいと思った。説明しやすいと思った。職員も興味を持てる内容だと思った。
- ・時間があっという間でした。先生が言われる「自己決定」の機会が支援者側からでなく本人目線からあるかどうか見直せる機会となりました。聞いていて支援者にとって叱咤激励のように感じました。ありがとうございました。
- ・グループワークの仕方で、皆がとにかくアイデアを出すというやり方をぜひやっていきたいと思った。
- ・具体的に「表」や「数値」にして問題行動の内容を見てアセスメントするのは現場で活かそうです。
- ・今自分が直面している対象者へのアプローチへのヒントを得ることができた。とても分かりやすい講義だった。
- ・今現在、事業所内でも応用行動分析を取り入れているため、わかりやすい説明でより詳しく学ぶことができました。

※他に39件の記述がありました。

2. TEACCHアプローチの統合的な考え方：構造化による支援のパラドックス

(スティーブ・クルーパ氏 訳者：田中 恭子氏)

| | | |
|--|-----------|--|
| | 大変参考になった | |
| | 参考になった | |
| | 参考にならなかった | |
| | 無記入 | |
| | 合計 | |



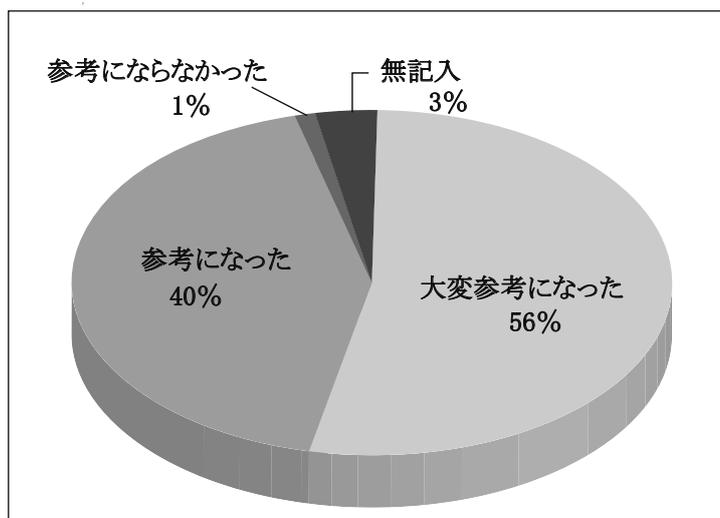
「大変参考になった・参考になった」の理由

- ・2回目の受講でしたが、クルーパ氏の考え方、共感しています。「愛と心」そのものが支援だと考えます。
- ・TEACCHアプローチの本質を知ることができ、TEACCHに対する認識が変わった。
- ・今まで技術的な側面にばかり着目されていたが、TEACCHプログラムの土台となる関係性について、再確認できたことはよかった。
- ・関係性を重要視するという視点は、もともとからTEACCHの支援の中にあっただけというのを聞くことができるとてもよかったです。
- ・クルーパ先生の話し方は英語がわからない私でも熱意が感じられ感動しました。TEACCHアプローチの考え方がよく分かった。
- ・支援していく上で、科学的な側面と、アート(技、能力)的な側面があることがわかった。
- ・スタッフの質が一番と言われたことに今までとは違う考え方を持つようになったから。
- ・日本で行われるTEACCH内容にとらわれていたので、人の質であったり、TEACCHは支援のひとつであることを知れてよかった。
- ・TEACCH=パーティション・構造化といった考え、自分が勤めている施設では浸透しています。TEACCHの考え方を学ぶことができ、本当の考え方を学びました。
- ・TEACCHプログラムの歴史や技法ではなく、結果的には支援は人だということが理解できた。
- ・TEACCHプログラム1つだけのアプローチだけでなく、多角的にアプローチを行うことが、当事者の方々の生活しやすい環境調整が叶うのだと感じました。

※他に3件の記述がありました。

3. 発達障害を巡る諸問題（山崎 晃資 氏）

| | | |
|--|-----------|--|
| | 大変参考になった | |
| | 参考になった | |
| | 参考にならなかった | |
| | 無記入 | |
| | 合計 | |



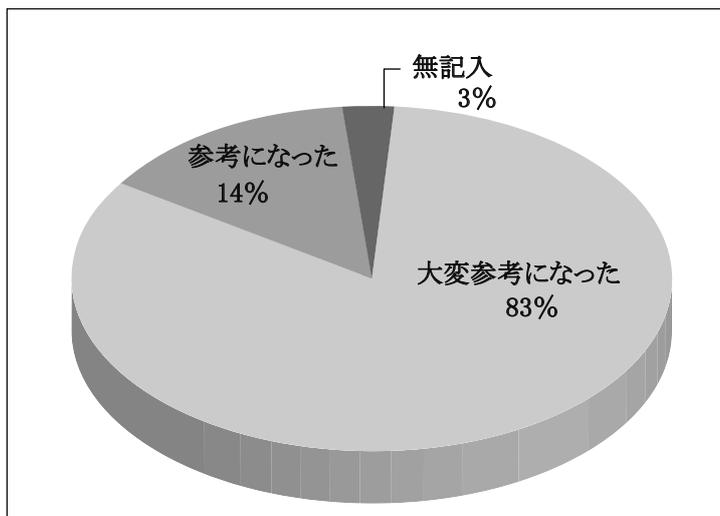
「大変参考になった・参考になった」の理由

- ・DSM-5について課題も含めて話していただき、大変参考になりました。
- ・医学的、専門用語などを含めて、一つ一つひも解いて、わかりやすく説明していただき、大きな知識を得ました。
- ・仕事上、利用者のかかる医者診断・診察が適切であるか疑問に思うことが度々ある。昨今安易な診断が行われている事実を知り、納得できた。
- ・発達検査の結果や診断が絶対というか、それをふまえて考えすぎていたなど自分自身振り返ることができた。
- ・発達障がい診断の難しさを、改めて教えてもらいました。安易に診断をすすめてはならない。個々の方々の背景・生育歴などしっかりと見て、寄り添うことが大切なのだと思います。
- ・臨床現場からの様々な問題を知る良い機会となった。
- ・解りやすかった。安易な診断に症状ばかり目が行き過ぎているといった話は共感できた。
- ・医学的な根拠。あまり聞くことがなかったので、とても参考になった。
- ・臨床現場で意識すべきこと、診断基準の使い方に関して、良い見解を聞くことができた。

※他に30件の記述がありました。

4. 発達障害の就労支援（梅永 雄二 氏）

| | | |
|--|-----------|--|
| | 大変参考になった | |
| | 参考になった | |
| | 参考にならなかった | |
| | 無記入 | |
| | 合計 | |



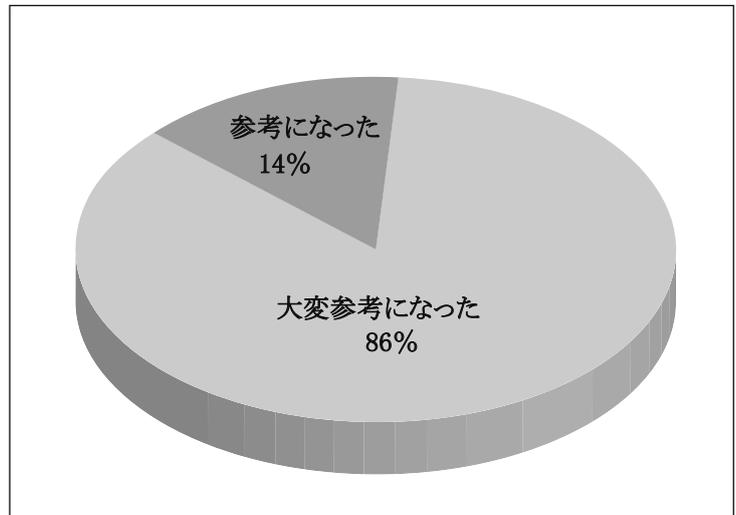
「大変参考になった・参考になった」の理由

- ・アスペルガーの方々の支援を考える良い機会になりました。
- ・気づいてもらいにくい存在であるADHDなど当事者の方が置かれている状況がわかりました。
- ・継続的に長く働くためには、ハードスキル・ソフトスキル・ライフスキルが重要であると学びました。
- ・就職することよりも、継続していくことの大変さ、その部分を支える大切さを学んだ。
- ・就労だけではない、各ライフステージでも参考になるテーマと感じました。
- ・小さな気づきが大きな幸せにつながると確信し、楽しく語られた梅永先生の講演は夢中になりました。
- ・知的に障害を伴わない、発達障害の方の、就労支援に大切なことを、学ぶことができました。ライフスキルを身に付けることで、就労が定着していくことを教えてもらいました。
- ・とても分かりやすいデータ、説明で、就労においてどのような支援を行っているかよくわかりました。
- ・ハードスキルとソフトスキルの理解、普段就労支援には関わっていないが、とても勉強になった。障害者の数など具体的説明あり興味深かった。
- ・ユーモアを交えて話してくださって、また、実例を交えて話してくださり、イメージしやすく大きな学びになりました。
- ・ライフスキルの視点は、通常在籍で困り感を持っている生徒さんたちにとっても重要であると思いました。さっそく支援に活かしたいと思います。

※他に31件の記述がありました。

5. アセスメントの力を高めるためのスーパーバイザーの役割と事例検討の進め方 (近藤 直司 氏)

| | | |
|--|-----------|--|
| | 大変参考になった | |
| | 参考になった | |
| | 参考にならなかった | |
| | 無記入 | |
| | 合計 | |



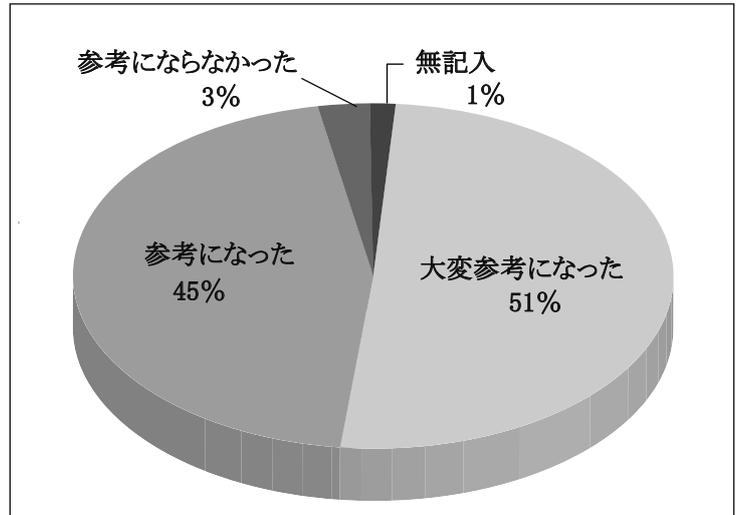
「大変参考になった・参考になった」の理由

- ・アセスメントの力をつける実践的な研修を受けたのは初めてで、これまでポイントを絞り効率的なアセスメントができていなかったと強く思いました。今後現場で活かしたいです。
- ・アセスメント力を高められた内容だった。グループの方々といろいろな側面から考えられた。
- ・くくだにならないう会議とはどういうことか、よく理解できた。
- ・繰り返し受けてみたいと思った講義でした。さらに何例か、検討をしてみたいと思いました。
- ・グループワークで行ったことにより（作業、話し合い）理解が深まった。レポート作成、ケース会議の進め方も参考になった。
- ・サービス担当者会議の開き方について、自分の今までの準備や進め方を振り返り、自分自身の癖に気が付いた。今後の支援や会議に反映させていきたい。
- ・職場に持ち帰り、即現場で役に立つので、とても良い演習研修でした。
- ・整理する、発言するということは、いかに文字化できるか、しっかりとしたものにまとめることができるか、まずはそこから始めようと思えました。ありがとうございました。
- ・フォーマットの使い方、進め方がわかり、事例検討をどのように進めていけば効果があるか、よくわかりました。
- ・報告の仕方の重要性を学んだ。アセスメントと、他者に伝えるプレゼン力を高めたい。
- ・目的が明確になった状態でケース参加者全員がのぞめる方法だと感じました。

※他に38件の記述がありました。

6. 気になる子どもの発達支援（加藤 淳 氏）

| | | |
|--|-----------|--|
| | 大変参考になった | |
| | 参考になった | |
| | 参考にならなかった | |
| | 無記入 | |
| | 合計 | |



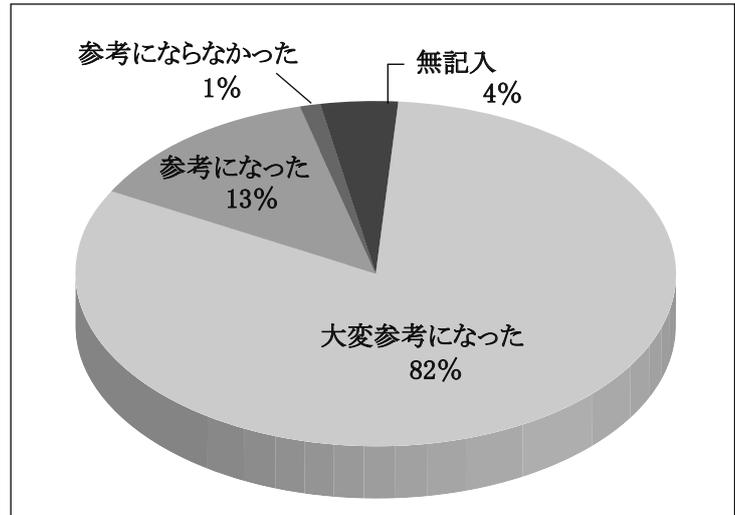
「大変参考になった・参考になった」の理由

- ・「気になる子ども」たくさんいます。私たちの思いが制度に組み入れられていくことを嬉しく思います。
- ・行政の今を聞くことができ参考になった。また、児童の分野にもかかわる仕事なので、役立てたいです。
- ・原点の話があったので、良かった。すごくわかりやすい。今現在のガイドラインを楽しみにしたい。
- ・現場と制度とのギャップを痛感できました。もっと制度的なところも学び、できることをしていければと思えました。
- ・自身の業務に関わる内容なので参考になった。また支援の考え方などもとても勉強になった。
- ・児童や幼児期の 気になり 気づき 初めて知ることが多く、参考になりました。
- ・小さいころからの気づきから支援に向けた流れ、課題がよくわかりました。
- ・日々気になる子の支援に携わっているので、とても聞きやすく理解しやすかったです。
- ・幼少時期の子供はもちろん、親を支える必要性を学んだ。
- ・様々の事象、取り組み、幼・児分野はほとんどわかりませんでしたので、勉強になりました。
- ・相談の立場から、保護者からの依頼によって、業務(かかわり)が始まるので、広い意味での児童発達支援のことをお聞きできたので、よかったです。

※他に2件の記述がありました。

7. スーパーバイザーに求められるスタンス (五十嵐 猛 氏)

| | |
|-----------|--|
| 大変参考になった | |
| 参考になった | |
| 参考にならなかった | |
| 無記入 | |
| 合計 | |



「大變参考になった・参考になった」の理由

- ・SVに何が求められているのか、非常に明確で、大分でのモデルは非常に勉強になりました。
- ・いろいろな考え方、視点、とらえ方を持ち、今後に生かしていくということを改めて感じました。
- ・支援員として気持ちの箇所すっごく共感しました。障害者の前に人であること。言葉にできない箇所を自分たちが言葉で形にすること、よかったです。
- ・実務研修でもお聞きしていたので、よくわかった。がんばらなければ…ではなくて、視野を広げて「あたりまえ」の感覚で、これからも熱意をもって、支援していきたいと思います。
- ・受容的交流理論とTEACCHのぶつかり合いの部分は昔、体感したことがありましたので、思い出しました。熱い思いを受けて、発展してきた2つの潮流が、今混在して発展した形で大分にあることがわかりました。SVとして熱い思いを受け継いでがんばります。
- ・スーパーバイザーとしてのネットワーク作りやスーパーバイザーとしてどういうことが求められるのか分かりやすかった。
- ・スーパーバイザーに求められることを、楽しい講義で終わることができてよかったです。専門性を高め、多様な知識を得ることが必要だと知り、自分のスキルを高めたいと心から思いました。ありがとうございました。
- ・是非、また一緒に勉強させていただきたいと思いました。先見の明をもって取り組まれていることがすごいと思います。
- ・大切だと思っていたことを再確認できる時間だと思いました。ありがとうございました。
- ・発達障害は、二次障害になってからの対応では遅く、早い段階からの気付きによって対応することができ、そのためには障害福祉分野だけではなく、子育て、ほかの様々な分野の協力がなければならないと思いました。

※他に 1件の記述がありました。

研修全体を通して

- ・1年を通して集合研修、実務研修、当事者研修を経験させていただき、とても勉強になりました。受講させていただき良かったです。これから、もっと勉強して、より良い支援を提供できるようになりたいと思います。
- ・V研修を通して、様々な職種の方々と出会うことができ、励まされました。実地研修は、期待通り、柔軟な発想と枠に縛られない取り組みを実際に見聞きすることができました。他のどんな研修よりも、有意義であったなと思います。これが、来年も続くと聞いて、本当に良かったと思いました。
- ・集中講義も素晴らしい先生方な上に、実際の現場にて体験ができる研修はとてもありがたいです。できる限り長く、この研修が続くことを願っています。そして、フォローアップ、スキルアップの研修もぜひよろしくお願いします。
- ・大変身になる研修会を本当にありがとうございました。一年で終わりということがとても残念で、毎年参加したいぐらい、内容の充実したものでした。来年度、夏の連絡会などに参加させていただければと思っています。
- ・当法人から、初めて参加させていただきましたが、内容が充実していてあらゆる場面で活かしていきたい点が数多くありました。次年度以降も、ぜひ職員を参加させ、法人全体のレベルアップに役立てていきたいと思っています。本当にありがとうございました。
- ・レベルが高く、意識が求められる非常に有意義な研修でした。自主性も求められ行動力が必要。受講者の方々も皆さん意識が高い人たちばかりで刺激を受けました。集合研修では机があれば受講しやすく感じます。

修了者名簿

H26年度 スーパーバイザー養成研修 修了者（H30年1月1日現在）

| 受講者No | 名 前 | ふりがな | 所属機関 | 所属(施設名) | 県 |
|-------|-------|-----------|-----------------------|-----------------------|-----|
| 26001 | 井上真紀子 | いのうえ まきこ | 社社会福祉法人 音別憩いの郷 | 生活介護事業所 あゆみ | 北海道 |
| 26002 | 塩原あかね | しおばら あかね | 社会福祉法人 侑愛会 | 星が丘寮 | 北海道 |
| 26003 | 上川 孝一 | かみかわ こういち | 社会福祉法人 侑愛会 | ねお・はろう | 北海道 |
| 26004 | 高橋 拓矢 | たかはし たくや | 社会福祉法人 はるにれの里 | 札幌市自閉症者自立支援センターゆい | 北海道 |
| 26005 | 古野 利明 | ふるの としあき | 株式会社 北海道ケア・サポート | 生活介護事務所 らいと西 | 北海道 |
| 26007 | 佐藤 友紀 | さとう ゆき | 岩手県発達障がい者支援センター | | 岩手 |
| 26008 | 田中 梢 | たなか こずえ | 茨城県立あすなろの郷 | 茨城県立あすなろの郷地域生活支援センター | 茨城 |
| 26010 | 小坂砂由里 | こさか さゆり | NPO法人 生活支援ネットワーク こもれび | NPO法人 生活支援ネットワーク こもれび | 茨城 |
| 26011 | 川田 政文 | かわだ まさふみ | 社会福祉法人 身障者ポニーの会 | 障害福祉サービス事業所 ポニーの家 | 茨城 |
| 26012 | 森 真紀 | もり まき | 社会福祉法人 愛信会 | 第二幸の実園 | 茨城 |
| 26013 | 大内 弘毅 | おおうち こうき | 社会福祉法人 梅の里 | あいの家 | 茨城 |
| 26014 | 森嶋 夏希 | もりしま なつき | 社会福祉法人 実誠会 | 障害者支援施設 なるみ園 | 茨城 |
| 26015 | 緒方 広海 | おがた ひろうみ | さいたま市発達障害者支援センター | | 埼玉 |
| 26016 | 増淵 英美 | ますぶち えみ | さいたま市発達障害者支援センター | | 埼玉 |
| 26018 | 及川 毅征 | おいかわ たけゆき | 社会福祉法人 けやきの郷 | 埼玉県発達障害者支援センター「まほろば」 | 埼玉 |
| 26019 | 土屋 一平 | つちや いっぺい | 社会福祉法人 緑の風福祉会 | 社会福祉法人 緑の風福祉会 | 埼玉 |
| 26020 | 大久保美香 | おおくぼ みか | 社会福祉法人 新 | 障害者支援施設 中新田自立スクエア | 埼玉 |
| 26024 | 加瀬紗矢佳 | かせ さやか | 社会福祉法人 泰斗会 | 生活介護事務所 八街わらの里 | 千葉 |
| 26025 | 今村 麻紀 | いまむら まき | 社会福祉法人 泰斗会 | 八街わらの里 | 千葉 |
| 26027 | 片桐 亮 | かたぎり りょう | 社会福祉法人 嬉泉 | 袖ヶ浦のびろ学園 | 千葉 |
| 26028 | 福岡 俊司 | ふくおか しゅんじ | 社会福祉法人 嬉泉 | 袖ヶ浦ひかりの学園 | 千葉 |
| 26029 | 館山 聡 | たてやま さとし | 社会福祉法人 菜の花会 | しもふさ工房 | 千葉 |
| 26030 | 前田 潤悦 | まえだ じゅんえつ | 社会福祉法人 菜の花会 | アーアンドディだいえい | 千葉 |
| 26033 | 井口 直樹 | いぐち なおき | 社会福祉法人 嬉泉 | おおらか学園 | 東京 |
| 26034 | 西川 輝 | にしかわ あきら | 社会福祉法人 嬉泉 | 板橋区立 赤塚福祉園 | 東京 |
| 26036 | 上田恵里子 | うえだ えりこ | 社会福祉法人 育桜福祉会 | 川崎市わーくす高津 | 神奈川 |
| 26037 | 佐野 良 | さの りょう | 社会福祉法人 育桜福祉会 | 桜の風 | 神奈川 |
| 26038 | 藤野 真一 | ふじの しんいち | 社会福祉法人 育桜福祉会 | 桜の風 | 神奈川 |
| 26043 | 金田 圭二 | かねだ けいじ | 社会福祉法人 はぐるまの会 | はぐるま共同作業所 | 神奈川 |
| 26044 | 岸岡 信也 | きしおか しんや | 社会福祉法人 新川むつみ園 | 社会福祉法人 新川むつみ園 | 富山 |
| 26046 | 辰野 聡則 | たつの あきのり | 社会福祉法人 つくしの会 | 自閉症者療育施設 はぎの郷 | 石川 |
| 26047 | 黒瀬 陽亮 | くろせ ようすけ | 社会福祉法人 すいせんの里 | 支援センター すだちの家 | 福井 |
| 26048 | 高野 哲哉 | たかの てつや | 社会福祉法人信濃の郷 | 障害者支援施設 白樺の家 | 長野 |
| 26051 | 八木 敦子 | やぎ あつこ | 静岡県発達障害者支援センター | | 静岡 |

| 受講者No | 名 前 | ふりがな | 所属機関 | 所属(施設名) | 県 |
|-------|-------|-----------|------------------------------|---------------------------|-----|
| 260 6 | 奥田 雅一 | おくだ まさかず | 社会福祉法人あゆみ | 社会福祉法人あゆみ | 三重 |
| 260 | 中村 和博 | なかむら かずひろ | 社会福祉法人 檜の里 | ワークセンターひのき | 三重 |
| 260 | 相羽 秀子 | あいば ひでこ | 岐阜県立希望が丘学園 | 発達障がい支援センターのぞみ | 岐阜 |
| 26060 | 平下 直樹 | ひらした なおき | 社会福祉法人 同朋会 | 伊自良苑 | 岐阜 |
| 26062 | 平林 啓邦 | ひらばやしひろくに | 社会福祉法人 京都杉の木会 | 京北やまぐにの郷 | 京都 |
| 2606 | 木坂 佳世 | きさか かよ | 社会福祉法人 永寿福社会 | 永寿の里 彩羽 | 大阪 |
| 2606 | 齋藤 克己 | さいとう かつみ | 社会福祉法人 あかりの家 | 障害者支援施設 あかりの家 | 兵庫 |
| 26066 | 亀山 隆幸 | かめやま たかゆき | 社会福祉法人 あかりの家 | 障害者支援施設 あかりの家 | 兵庫 |
| 2606 | 春田 紗希 | はると さき | 社会福祉法人まほろば | 三木光司園 | 兵庫 |
| 26068 | 藤井 幸子 | ふじい さちこ | 社会福祉法人 五倫会 | 姫路暁乃里 | 兵庫 |
| 2606 | 岡田 昌人 | おかだ まさと | 社会福祉法人 アルーラ福社会 | 障害者支援施設アルーラ | 兵庫 |
| 260 0 | 西川 悟 | にしかわ さとる | 社会福祉法人 姫路潮会 | ぬかちゃん福祉作業所 | 兵庫 |
| 260 2 | 河本 真代 | かわもと まよ | Autism Life Support Kure あかり | | 広島 |
| 260 | 岩武 毅 | いわたけ つよし | 社会福祉法人 蓬莱会 | 社会福祉法人 蓬莱会 | 山口 |
| 260 | 曾利 真弓 | そり まゆみ | 社会福祉法人 香川県社会福祉事業団 | 香川県ふじみ園 | 香川 |
| 260 6 | 浅田 慎児 | あさだ しんじ | 社会福祉法人 徳島県手をつなぐ育成会 | 障害者支援施設ルキーナ・うだつ | 徳島 |
| 260 8 | 森本 恭世 | もりもと やすよ | 北九州市発達障害者支援センター「つばさ」 | | 福岡 |
| 26080 | 田中 一旭 | たなか かずてる | NPO法人みんなの広場とんとん | こども発達支援センターもも認定こども園いちご保育園 | 大分 |
| 26081 | 渡辺 香織 | わたなべ かおり | 特定非営利活動法人さんぼ | こども発達支援センター あ〜く | 大分 |
| 26082 | 越智 芳子 | おち よしこ | 社会福祉法人 別府発達医療センター | 社会福祉法人 別府発達医療センター | 大分 |
| 2608 | 園田 和則 | そのだ かずのり | 社会福祉法人 大分市福社会 | 多機能型事業所「おおいた」 | 大分 |
| 26086 | 五十嵐 猛 | いがらし たけし | 社会福祉法人 萌葱の郷 | 障害者支援施設 めぶき園 | 大分 |
| 2608 | 野上 悦生 | のがみ えつお | 社会福祉法人 萌葱の郷 | 障害者支援施設 めぶき園 | 大分 |
| 26088 | 山本 良 | やまもと りょう | 第二つつじヶ丘学園 | | 熊本 |
| 260 0 | 佐藤 和也 | さとう かずや | 社会福祉法人 三気の会 | 三気の里 | 熊本 |
| 260 2 | 吉田 美雪 | よしだ みゆき | 社会福祉法人 南恵会 | しえすた・への塾 | 鹿児島 |
| 260 | 野平 文香 | のびら ふみか | 特定非営利活動法人 たけのこキッズ | たけのこキッズ 児童発達支援センター | 鹿児島 |
| 260 | 有木 友紀 | ありき ゆき | 社会福祉法人 八重山会 | 第二ときわの家 | 鹿児島 |

H27年度 スーパーバイザー養成研修 修了者 (H30年1月1日現在)

| 受講者No | 名 前 | ふりがな | 所属機関 | 所属(施設名) | 県 |
|-------|--------|-----------|-----------------|--------------------|-----|
| 2 002 | 長谷川 秀和 | はせがわ ひでかず | 株式会社 北海道ケア・サポート | 放課後等ディサービス らいとわーくす | 北海道 |
| 2 00 | 白土 英輝 | しらと ひでき | 社会福祉法人 実誠会 | 障害者支援施設 なるみ園 | 茨城 |
| 2 00 | 井澤 朋子 | いざわ ともこ | 茨城県立 あすなろの郷 | 地域生活支援センター | 茨城 |
| 2 00 | 入野 和子 | いりの かずこ | NPO法人だいち | ライフステーション樹林 | 茨城 |

| 受講者No | 名 前 | ふりがな | 所属機関 | 所属(施設名) | 県 |
|-------|--------|-----------|--------------------|----------------|-----|
| 2 008 | 吉田 美恵 | よしだ みえ | 有限会社 友遊舎 (就労支援事業所) | | 茨城 |
| 2 010 | 大内 朝陽 | おおうち あさひ | 社会福祉法人 茨城補成会 | 潤沼学園集まれガッツ村 | 茨城 |
| 2 011 | 岩井 雄希 | いわい ゆうき | 社会福祉法人 美しの森 | 障害者支援施設 虹の里 | 茨城 |
| 2 012 | 北澤 貴子 | きたざわ たかこ | 茨城県筑西市立養蚕小学校 | | 茨城 |
| 2 01 | 沖田 健 | おきた けん | 社会福祉法人 けやきの郷 | グループホーム 潮寮 | 埼玉 |
| 2 018 | 釜石 昂洋 | かまいし たかひろ | 社会福祉法人 敬心福祉会 | 浦安市障がい者福祉センター | 千葉 |
| 2 01 | 渡部 聡 | わたなべ さとし | 社会福祉法人 菜の花会 | しもふさ学園 | 千葉 |
| 2 020 | 鶴沢 敦史 | うざわ あつし | 社会福祉法人 菜の花会 | アーアンドディだいえい | 千葉 |
| 2 02 | 羽柴 優美 | はしば ゆみ | 中野区立療育センター | アポロ園 | 東京 |
| 2 02 | 本多 公恵 | ほんだ きみえ | 社会福祉法人 滝乃川学園 | 地域支援部 | 東京 |
| 2 026 | 西 文子 | にし ふみこ | 社会福祉法人 同愛会 | 地域相談支援センター にじ | 神奈川 |
| 2 0 0 | 武藤みや子 | むとう みやこ | 社会福祉法人 同愛会 | 地域相談支援センター にじ | 神奈川 |
| 2 0 1 | 小沼 利記 | おぬま としき | 社会福祉法人 育桜福祉会 | 障害者支援施設 桜の風 | 神奈川 |
| 2 0 2 | 木立 伸也 | きだち しんや | 富山県発達障害者支援センターあおぞら | 富山県高志通園センター | 富山 |
| 2 0 | 般若 敏雄 | はんにか やとしお | 社会福祉法人 めひの野園 | | 富山 |
| 2 0 | 速見 雅子 | はやみ まさこ | 障害者支援施設 野積園 | | 富山 |
| 2 0 | 中野 周一 | なかの しゅういち | 社会福祉法人 溪明会 | 障害者支援施設 花椿きらめき | 富山 |
| 2 0 | 大滝 健一 | おおたき けんいち | 社会福祉法人 林檎の里 | 自閉症支援施設 あおぞら | 長野 |
| 2 0 8 | 武山 弥生 | たけやま やよい | 発達障害児・者及び家族支援の会 | シーズ | 長野 |
| 2 0 0 | 石原 由美 | いしはら ゆみ | 岐阜県発達障害者支援センター | のぞみ | 岐阜 |
| 2 0 1 | 濱井 君弘 | はまい きみひろ | 社会福祉法人 あゆみ | 支援センターあゆみ夢楽園 | 三重 |
| 2 0 2 | 清水 孝幸 | しみず たかゆき | 社会福祉法人 檜の里 | グループホーム あさけホーム | 三重 |
| 2 0 | 中村 信二 | なかむら しんじ | 社会福祉法人 松花苑 | みずのき | 京都 |
| 2 0 | 大内 望 | おおうち のぞみ | 社会福祉法人 松花苑 | みずのき | 京都 |
| 2 0 | 丸田富美代 | まるた ふみよ | 社会福祉法人 南山城学園 | 障害者支援施設 翼 | 京都 |
| 2 0 6 | 柴田 博史 | しばた ひろふみ | 大阪市立 田川小学校 | | 大阪 |
| 2 0 | 竹内 恒 | たけうち ひさし | 社会福祉法人 北摂杉の子会 | 萩の杜 | 大阪 |
| 2 0 8 | 浦 大 | うら だい | 社会福祉法人 永寿の里 | 彩羽 | 大阪 |
| 2 0 | 廣石 俊雄 | ひろいし としお | 社会福祉法人 阪神福祉事業団 | ななくさ育成会 | 兵庫 |
| 2 0 0 | 藤井 美紀子 | ふじい みきこ | 兵庫県社会福祉事業団 | 三木精愛園 | 兵庫 |
| 2 0 1 | 尾崎 勇一 | おざき ゆういち | 社会福祉法人 あかりの家 | 障害者支援施設 あかりの家 | 兵庫 |
| 2 0 2 | 坊垣 勝彦 | ぼうがき かつひこ | 社会福祉法人 あかりの家 | 障害者支援施設 あかりの家 | 兵庫 |
| 2 0 | 柳谷 菜穂 | やなぎたに なお | 社会福祉法人 五倫会 | 姫路暁乃里 | 兵庫 |
| 2 0 | 前川 由香 | まえかわ ゆか | 社会福祉法人 さつき福祉会 | 琴弾の丘 | 兵庫 |
| 2 0 | 吉田 壽子 | よしだ としこ | 社会福祉法人 樫原ふれあいの里福祉会 | 樫原ふれあいの里 | 奈良 |

| 受講者No | 名 前 | ふりがな | 所属機関 | 所属(施設名) | 県 |
|-------|-------|------------|------------------|----------------------|-----|
| 2 0 | 青山 慎史 | あおやま しんじ | 広島市発達障害者支援センター | | 広島 |
| 2 060 | 小柳 拓也 | こやなぎ たくや | 社会福祉法人 蓬莱会 | 指定障害者支援施設 ゆうあい | 山口 |
| 2 061 | 林 祐樹 | はやし ゆうき | 医療法人 信和会 | 大牟田保養院 | 福岡 |
| 2 06 | 武田 行美 | たけだ ゆきみ | 社会福祉法人 東ノ原会 | 桂木とくのみ園 | 福岡 |
| 2 06 | 岡村 亜紀 | おかむら あき | 社会福祉法人 葦の家福祉会 | 障がい福祉サービス事業葦の家 | 福岡 |
| 2 06 | 中山 孝一 | なかやま こういち | 社会福祉法人 ことの海会 | デイサービスふわり | 長崎 |
| 2 066 | 永野 陽介 | ながの ようすけ | 社会福祉法人 ことの海会 | 児童発達支援センターふわり久原 | 長崎 |
| 2 068 | 平田 幸子 | ひらた さちこ | 社会福祉法人 蓮華園 | 千草野学園 | 長崎 |
| 2 0 0 | 福山 千熊 | ふくやま ちぐま | 社会福祉法人 愛育学園 | 福祉型障害児入所施設 愛育学園 | 熊本 |
| 2 0 1 | 松本慎太郎 | まつもと しんたろう | 社会福祉法人 三気の里 | 障がい者支援施設 三気の里 | 熊本 |
| 2 0 8 | 定平 佳子 | さだひら よしこ | NPO法人 みんなの広場とんとん | こども発達支援センターもも | 大分 |
| 2 080 | 佐藤 任孝 | さとう ひでたか | 社会福祉法人 萌葱の郷 | 大分県発達障がい者支援センターECOAL | 大分 |
| 2 081 | 樋之口貴弘 | てのくち たかひろ | 社会福祉法人 八重山会 | ときわの家 | 鹿児島 |
| 2 08 | 西田美千代 | にしだ みちよ | 医療法人 親貴会 | 児童発達支援センター てんがらかん | 鹿児島 |

H28年度 スーパーバイザー養成研修 修了者 (H30年1月1日現在)

| 受講者No | 名 前 | ふりがな | 所属機関 | 所属(施設名) | 県 |
|-------|-------|------------|-----------------------|-----------------|-----|
| 28001 | 鎌田 純子 | かまだ じゅんこ | 合同会社 おうる | | 北海道 |
| 28002 | 北原 裕之 | きたはら ひろゆき | 株式会社 北海道ケア・サポート | 生活介護事業所 らいと西 | 北海道 |
| 2800 | 木村三千代 | きむら みちよ | 八戸市こども支援センター | | 青森 |
| 2800 | 斎藤 憲樹 | さいとう のりき | 社会福祉法人 七峰会 | 障害者支援施設 拓光園 | 青森 |
| 2800 | 永山 京介 | ながやま けいすけ | 社会福祉法人 いわき福音協会 | はまなす荘 | 福島 |
| 28006 | 高橋 幸子 | たかはし さちこ | 社会福祉法人 福音会 | 宇津峰十字の里 | 福島 |
| 28012 | 松島 幹雄 | まつしま みきお | 社会福祉法人 征峯会 | ピアしらとり | 茨城 |
| 2801 | 高橋 通泰 | たかはし みちやす | 社会福祉法人 けやきの郷 | ワークセンターけやき | 埼玉 |
| 2801 | 柏崎 純子 | かしわざき じゅんこ | 社会福祉法人 菜の花会 | しもふさ学園 | 千葉 |
| 2801 | 山形 洋子 | やまがた ようこ | 社会福祉法人 菜の花会 | しもふさ学園 | 千葉 |
| 2801 | 徳永 和子 | とくなが かずこ | 社会福祉法人 まつど育成会 | 障害者支援施設 まつぽっくり | 千葉 |
| 2801 | 西田 智子 | にしだ ともこ | 社会福祉法人 萌の会 | 障害者支援施設 愛幸 | 東京 |
| 28022 | 伊藤 洋介 | いとう ようすけ | 社会福祉法人 正夢の会 | 昭島生活実習所 | 東京 |
| 2802 | 高崎 誠 | たかさき まこと | 社会福祉法人 滝乃川学園 | 地域支援部 れすぱいとセンター | 東京 |
| 2802 | 木下 泰秀 | きのした やすひで | 株式会社 ソーシャル・スパイス・カンパニー | Bi-z Labo 多摩 | 神奈川 |
| 280 0 | 吉田 順彦 | よしだ のぶひこ | 公益財団法人 川崎市身体障害者協会 | 中部身体障害者福祉会館 | 神奈川 |
| 280 2 | 滝田 信子 | たきた のぶこ | 一般社団法人 SOWE T | 多機能型事業所 みんなの広場 | 神奈川 |
| 280 | 岩田 和可 | いわた かずか | 社会福祉法人 セイワ | あさお基幹相談支援センター | 神奈川 |

| 受講者No | 名 前 | ふりがな | 所属機関 | 所属(施設名) | 県 |
|-------|-------|------------|-----------------------|-----------------------|-----|
| 280 | 石黒 裕二 | いしぐろ ゆうじ | 社会福祉法人 三篠会 | 障がい者支援施設 みずさわ | 神奈川 |
| 280 | 増子 裕美 | ましこ ゆみ | 特定非営利活動法人 だるまの会 | | 神奈川 |
| 280 8 | 桑原美由紀 | くわはら みゆき | 特定非営利活動法人 てくてく | 相談支援事業所 てくてく | 長野 |
| 280 0 | 辻田 剛己 | つじた ごうき | 社会福祉法人 ふじの郷 | さつき学園 | 静岡 |
| 280 1 | 園田 裕介 | そのだ ゆうすけ | 特定非営利活動法人 ぐらし応援ネットワーク | 就労移行支援事業所 ご縁 | 愛知 |
| 280 6 | 京 美保 | きょう みほ | 社会福祉法人 愛燦会 | 障がい者センターあいさんハウス | 愛知 |
| 280 | 伊藤 克哉 | いとう かつや | 社会福祉法人 新潟太陽福祉会 | 共同生活援助事業 はまゆり | 新潟 |
| 280 8 | 山橋 真人 | やまはし まこと | 社会福祉法人 めひの野園 | ウォーム・ワークやぶなみ | 富山 |
| 280 | 松本 幸子 | まつもと さちこ | 学校法人 近田幼稚園 | 認定こども園 近田幼稚園 | 兵庫 |
| 280 | 藤井 みき | ふじい みき | 社会福祉法人 三木市社会福祉協議会 | 三木市立障害者総合支援センターはばたきの丘 | 兵庫 |
| 280 | 松川 悟士 | まつかわ さとし | 社会福祉法人 博由社 | 加古川市立つつじ園 | 兵庫 |
| 280 8 | 常深 章子 | つねみ しょうこ | 社会福祉法人 まほろば | 三木光司園 | 兵庫 |
| 280 | 清水 俊美 | しみず としみ | 特定非営利活動法人 みんなのいえ | | 兵庫 |
| 28060 | 阪田 直樹 | さかた なおき | 社会福祉法人 パレット会 | 障害者支援施設 パレットたつの | 兵庫 |
| 2806 | 杉本 秀幸 | すぎもと ひでゆき | 社会福祉法人 笠岡市社会福祉事業会 | 障害者支援施設 笠岡学園 | 岡山 |
| 2806 | 小椋由紀恵 | おぐら ゆきえ | 社会福祉法人 勝明福祉会 | 障がい福祉サービス事業所 きずな | 岡山 |
| 28066 | 坪田 里美 | つばた さとみ | 社会福祉法人 津山社会福祉事業会 | ラルーチェめぐみ | 岡山 |
| 280 | 岡崎 玲子 | おかざき れいこ | 社会福祉法人 蓮華園 | 千草野学園 | 長崎 |
| 280 | 久保 勝喜 | くぼ かつき | 社会福祉法人 ことの海会 | 児童発達支援ふわり本町 | 長崎 |
| 280 | 河野 拓 | こうの たく | 幼保連携型認定こども園 | 緑が丘こども園 | 大分 |
| 280 | 田淵 利枝 | たぶち としえ | 大分大学教育学部附属幼稚園 | | 大分 |
| 28080 | 山田 千愛 | やまだ ちあき | 社会福祉法人 順徳会 | キッズアカデミー保育園 | 大分 |
| 28082 | 大津 晶子 | おおつ しょうこ | 社会福祉法人 とんとん | こども発達支援教室すもも | 大分 |
| 2808 | 田中 秀征 | たなか ひでゆき | 社会福祉法人 萌葱の郷 | 大分県発達障がい者支援センターECOAL | 大分 |
| 2808 | 小野淳一郎 | おの じゅんいちろう | 社会福祉法人 萌葱の郷 | 障害者支援施設 めぶき園 | 大分 |

< ご 挨拶 >

「日本財団助成 平成28年度発達障害支援スーパーバイザー養成研修」にご参加いただきました皆様、ご支援、ご協力いただきました団体、関係各位に心より厚く御礼申し上げます。

尚、事業実施報告書内の画像や文章、情報等を無断で複製・転載・流用・複写等することはご遠慮ください。

発達障害支援スーパーバイザー養成研修を通して、至らない点が多々あったかと思いますが、ご容赦いただきますようお願い申し上げます。

今後も、発達障害支援スーパーバイザー養成研修に参加してよかったと思っただけのように尽力していきたいと考えております。何かお気づきの点がございましたら、気兼ねなくお申し付けください。

発達障害支援スーパーバイザー養成研修事務局

原田 竜二

日本財団助成 平成28年度発達障害支援スーパーバイザー養成研修

事業実施報告書

発行者 全日本自閉症支援者協会
会長 松上 利男
URL <http://zenjisyakyo.com>

発行日 平成30年1月1日

事務局 社会福祉法人 萌葱の郷
〒879-7306 大分県豊後大野市犬飼町下津尾4355番地10
TEL 097-578-0818 FAX 097-578-0819